

仙台市市民センター事業評価に関する意見について

仙台市公民館運営審議会

平成29年10月

目次

はじめに	… P 1
I 事業評価について	… P 1
1 評価全体について	… P 1
2 公民館運営審議会が行う評価について	… P 2
3 その他	… P 3
II 事業運営懇話会等について	… P 3
1 事業運営懇話会について	… P 3
2 指定管理者自主事業「お茶っこサロン」について	… P 5
3 その他	… P 6
今後に向けて	… P 6
○仙台市公民館運営審議会委員名簿	… P 7
○仙台市公民館運営審議会審議経過	… P 8
資料1 仙台市市民センター事業評価報告書（平成 29 年 3 月 23 日）	… P 9
資料2 仙台市市民センターの事業評価の実施状況について	… P 3 5
資料3 現行の市民センター事業の評価体制	… P 3 7
資料4 事業運営懇話会等について	… P 3 9
資料5 平成 28 年度 事業運営懇話会等開催実績	… P 4 1
資料6 指定管理者自主事業「お茶っこサロン」について	… P 4 3
資料7 平成 28 年度 事業評価対象事業のその後の展開について	… P 4 5

はじめに

仙台市公民館運営審議会（以下、審議会という。）はこれまで、仙台市市民センター事業の評価のあり方」についての答申（平成 25 年 5 月）に基づき、毎年、市民センターの事業評価を実施してきた。

審議会による外部評価は、平成 23 年度の区中央市民センターの区役所移管に伴って、生涯学習事業の質の確保の必要性が高まったことなどにより導入されたものであり、平成 23 年度の試行的評価では、まず区中央市民センターの事業を取り上げた。

次に、前期（平成 25 年 11 月～平成 27 年 10 月）の後半からは地区市民センターの震災を踏まえた事業を取り上げ、今期（平成 27 年 11 月～平成 29 年 10 月）の審議会では、地区市民センターの重要な事業となっている市民参画型事業を評価対象として取り上げた。

黒松市民センターの「市民企画会議」と富沢市民センターの「複数年事業」を対象に、現地に出向きヒアリング等の調査を行い、平成 28 年度末には評価報告書を取りまとめたところであるが、その議論の中で、審議会の評価が市民センター事業の向上に役立つものになっているかどうか、再度確認が必要との指摘がなされた。

市民センターの事業評価は、仙台市や指定管理者においても実施されており、平成 29 年度は、改めて市民センター事業の評価全体について理解を深めた上で、外部評価のあり方を検討していくこととした。

以下は、審議の中で出された委員の意見を内容ごとにまとめて記載したものである。

I 事業評価について

市民センター事業評価の実施状況【①指定管理者評価制度（指定管理者による自己評価・市による内部評価）、②事業反省評価（指定管理者による内部評価・市による内部評価）、③教育委員会による点検評価（市による自己評価）、④重点 3 事業に係る事業評価（市による自己評価）、⑤公民館運営審議会による評価（外部評価）】を踏まえ、評価のあり方等について意見交換を行った。各委員からの主な意見は以下のとおりである。

1 評価全体について

- ・年度途中や年度末の評価結果が、生かされる仕組み（Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善））となっているか検証する必要がある。
- ・事業期間や指定管理の切り替え時期において、それまでの評価や課題意識を、次期の事業や指定管理者へ適切に移行できるような評価のあり方、仕組みづくりが必要。
- ・細部にわたる評価方法は、評価のための評価にならないよう、形骸化しない運用が求められる。評価が負担にならないよう、記載の仕方などをもっと工夫してもよい。

・有識者等の意見だけでなく、市民による評価や公表した内部評価に対する市民の受け止め方を把握することも大切である。事業の現場にとっても、実際に市民センターに来た市民の評価が一番知りたい評価であるし、次への励みになっていく。

・事業評価を基に事業の現場で振り返りを行い、改善点を話し合うことが継続的に行われていけば、事業改善につながりモチベーションの向上も図れるので、望ましいあり方ではないか。

・利用者が参加する事業運営懇話会等は、外部評価の一つとなり得るのではないか。形骸化せずに、市民、行政、審議会とそれぞれ役割分担ができるとよい。

・区中央市民センターが移管される中で評価の必要性が高まり、外部評価を加え現行の市民センター事業の評価体制となったが、評価のあり方は重いテーマであり、現行の評価体制が最終形ではないと考える。評価はどうあるべきかという議論をこれからも続けていく必要がある。

・大切なのは、利用者の声がどう反映されたかということなので、市民センター事業の評価の体制に利用者が入るといいのではないか。

・複数の評価があることから、なにを評価するのかははっきりさせないと、建設的な方向にいかないのではないか。評価の目的をはっきりさせることが必要である。

・市教育委員会には、社会教育委員の会議があり、事業の評価は行っていないということだが、社会教育委員が現行の市民センター事業の評価体制の「学識経験者・有識者」となる場合もある。社会教育委員の会議と公民館運営審議会はまったく関係がなくていいのか、情報を共有すべきではないのかなど、将来的な課題であると考ええる。

・市民センター事業評価の体系は発展途上であるという認識である。多くの内部評価を整理し、もっとシンプルにすべきである。また、内部評価を行う職員のスキルアップを行うとともに、評価基準軸を立て、それに沿って評価者が一定のレベルで評価が行えるようにすることも求められる。

2 公民館運営審議会が行う評価について

・審議会が、内部の評価様式（評価項目や評価内容）について認知せずに、外部評価を行うことの是非は検討すべき。自己評価に対して内部評価がどうなっているかを踏まえた議論が必要ではないか。

- ・審議会での議論を進めるうえでの一つの拠り所にもなるので、自己評価、内部評価の結果を示してもらいたい。

- ・外部評価として審議会の評価が対象事業へフィードバックされる際にはタイムラグが発生するため、事業改善効果の観点からすると、事業内容への評価は効果が低く、事業運営や進め方への評価には効果が望める。

- ・審議会が実際に利用者の声を聞くことは非常に良いことであり、事業をする側の市民センターと参加する市民をつなぐ媒介者の形で現場に関わることが求められている。

3 その他

- ・サービスや質の向上という評価項目もあるが、利用者の要望をただ叶えればよいというものではない。市民センターは生涯学習の現場であり、教育的な配慮は大切にしてほしい。

- ・地区市民センターが人づくり、地域づくり支援といった要求水準に応じて事業を展開するうえで、人材の確保や育成の重要性を認識し、市は予算を確保し力を入れていくことが必要である。

II 事業運営懇話会等について

地区市民センターにおける必須事業である「事業運営懇話会」について、実施状況を踏まえ、外部評価としてのあり方等について意見交換を行った。併せて、現指定管理者が実施している自主事業「お茶っこサロン」について意見交換を行った。各委員からの主な意見は以下のとおりである。

1 事業運営懇話会について

- ・利用サークル団体を対象とした事業運営懇話会が 22 館に留まっているのは、非常に多くの団体が利用している中でどの団体に声を掛けたらよいのか、多くの館が共通して抱えている課題の現れではないか。

- ・事業運営懇話会はまず継続していくことが大事であり、年 2 回、前期と後期に開催というケースが多いので、この年 2 回を共通した一つの目標にしたらいいのではないか。

- ・事業運営懇話会を年 2 回は実施していただきたいと思う。その場合、メンバーを固定化しないで実施する方が面白いのではないか。サークルが全部入るように工夫していけばいいと思う。

・市民センターは中学校区を単位としているので、市民センターからの距離で利用頻度や関わり方が決まってしまう側面はあるが、コミュニティ・センターがある、距離的に遠い、等の理由で声を掛けていない町内会・連合町内会がないよう取り組んでいただきたい。

・事業運営懇話会の内容は幅広く、例えば学校長や町内会の方が出席してネットワークができ、地域のカレンダーなどを作成してイベントの重なりを調整する機会となるなど、地域づくりに役立っている側面がある。一方で、事業運営懇話会で出された地域課題をどのように講座等に反映していくのかという課題もある。どういった人をターゲットにしてどのように意見を聞き取っていくのか、的を絞って明確化していけば、もっといい場になっていくと思う。

・事業運営懇話会が、評価改善を目的とした何かしらの形になっていくとすれば、課題解決型事業を行っている市民センターの事業の参加者は、事業運営懇話会の重要な参加者となるのではないかな。

・市民センターの施設理念や事業目的に沿って、この事業を行うということが、事業運営懇話会に出席している方たちの手元に資料として渡され、意見交換ができていけば、市民からの働きかけにもつながり、市民力もアップし、市民センターへの理解も深まる。参加者も固定して年 2～3 回開催されれば、年間を通して PDCA が回り、市民センターもボトムアップしていきながら、市民のための市民センターに近づくとと思う。

・利用者同士のネットワークをどう作っていくかの問題があり、そうした人たちが市民センターと常に関わりあうことが本来の事業評価や事業改善につながると思う。目指すべき事業運営懇話会の姿として、利用者側から働きかけていく側面が必要で、それを市民センター事業としてどう作るかが課題である。

・利用者側からの働きかけを育てることが大事であり、例えばいくつかのサークルが事業運営懇話会に参加し、「このような活動が必要ではないか」「こういう運営の仕方も必要ではないか」といった働きかけがあれば、それが市民センターの自己評価に反映され、改善につながっていくことにもなる。事業運営懇話会がサークルの方たちやサークル等に参加していない市民への働きかけのきっかけともなれば、市民活動の人材、市民力アップにもつながる。事業運営懇話会はそのようなこともできるのではないかな、あるいは求めてもいいのではないかな。

・市民センターがフォーマル・インフォーマルのいろいろな情報をきちんとインプッ

トしたものをどのように市民と共有し総合化し、市民を巻き込んでいくことができるかということであり、理想ではあるが、事業運営懇話会がそうした活動の場として大きな飛躍につながっていくのではないかと思う。

- ・外部評価として取り組む場合には、市民センターを応援する人材を作っていくという視点が大切である。

- ・事業運営懇話会を継続して実施していけるよう、その仕組みづくりの役割を生涯学習支援センターが担うことが大切である。

2 指定管理者自主事業「お茶っ子サロン」について

- ・お茶っこサロンは、楽しく参加でき交流ができる大事な場である。家にこもりがちな高齢者にどうやって外に出ていただくかということが課題になっているので、「お茶でも飲みに来て」と言える場所がいくつでもあるといいと思う。

- ・お茶っこサロンは事業運営懇話会と違って何でも言えそうな雰囲気があり、非常にいい取り組みである。集まる機会、意見をいう回数が多くなるのは大事なことである。何でも言える雰囲気を作ることはとても難しいが、工夫が感じられる。

- ・お茶っこサロンは、個人の意見を聴取するのが目的で、団体同士のネットワーク形成は目的としていなかったということだが、地域力の面では異なる複数のサークル同士のネットワークが形成されていくことによって次の展開の可能性もあると思う。

- ・ある市民センターのサークル代表者が集まるサークルの活性化や参加者募集を目的とした会議では、活発な意見交換がされていた。このような利用サークルの活性化につながるようなお茶っこサロンを開催するのもいいのではないか。

- ・お茶っこサロンのようなものは、町内会や社会福祉協議会でもさまざま実施しているが、それでもなおカバーしきれない人がいるならば、市民センターが実施することもいいのだろうと思う。カバーしきれないところをバックアップしていくのが公民館、社会教育の大切なところだと思うので是非続けてほしい。

3 その他

- ・事業運営懇話会、お茶っこサロンとも、既存の利用者だけの参加となると、潜在的なニーズ、例えば子育てをしている世代や若者の世代などのニーズは把握できない。潜在的なニーズを汲み取るには、そういった人たちが集まる場に出向くような取組も必要

ではないか。

- ・地域のコミュニティ・センターではどのような活動を行っているのかを把握し、市民センター職員が助言や相談に応じるということも考えて欲しい。

- ・現状では、利用サークルの代表者以外の人やサークル・講座等に参加していない方など、かなり多くの声があると思われるが、そうした多くの声を市民センターの中で事業化していくときに、どのように市民を巻き込んでいくのが課題だと思う。住民の声を計画や事業に繋げていく、そのプロセスに住民が関わることは、住民のある種の役割として認識してもらおうということも大切である。

今後に向けて

今期の審議会は委員から事業評価に関わる多くの意見が出された。市民センターの事業評価は自己評価、内部評価が実施されているとともに、本審議会による外部評価も行われている。また、評価という形を取ってはいないが、各市民センターでは、事業運営懇話会が年2回から数回開かれており、地域の団体やセンターの利用サークル等からセンター事業運営に関わる意見や要望を聴取している。併せて、指定管理者は「お茶っこサロン」(自主事業)を開き、開催事業についての感想や意見を聴取している。これらについて委員からは上記に示したような意見が出された。最後に、重要な視点を挙げておきたい。

一つは、本審議会が行う外部評価について、特に、評価を受けた当該事業実施の市民センターが、事業の改善や運営の向上に役立ったのかどうかというフィードバックが必要であるとの認識が共有されたことである。評価の意義は、改善につながったかどうかということにあり、それが可視化されることで評価のステップアップを図ることもできる。

もう一つは、事業運営懇話会やお茶っこサロンが、市民の声を直に聞き取ることができる機会となっていることへの期待である。懇話会やサロンは、いわばインフォーマルな情報による事業運営への評価でもあり、市民からの改善に向けた貴重な意見や提案が込められているとの認識のもとに、今後の懇話会、サロンの運営を定期化し推進することが求められる。

以上の意見交換を通じて、市民センター事業の現行の評価体制は、利用者の役割を組み込むなど、今後も見直しを行っていくこと、その際、それぞれの事業評価の目的を明確にすること、審議会としても、内部評価等を踏まえた上で、今後も事業の改善に役立つ事業評価の実施と評価のあり方の検討を行っていくことを確認した。

この2年間、定例の審議会のほか、タイトな時間の中でも直接市民センターへ出向いての視察・ヒアリングや臨時会を持ち意見を出し合ってきた。

ここに示した意見・提案を、これからの事業評価の検討や審議に是非とも役立てていただきたい。

仙台市公民館運営審議会委員名簿

(任期：平成27年11月1日から平成29年10月31日まで)

	氏名	職業または所属団体
1	あべ ゆき 阿部 侑生	Dream Field代表
2	いちのせ とものり 市瀬 智紀	宮城教育大学教員キャリア研究機構教授
3	きよはし ひろこ 幾世橋 広子	仙台市社会学級研究会顧問
4	こい わ たかこ 小岩 孝子	NPO法人FOR YOUにこにこの家理事長
5	こちざわ まさゆき 小地沢 将之	仙台高等専門学校総合工学科准教授
6	さいとう じゅんこ 齋藤 純子	NPO法人せんだい杜の子ども劇場代表理事
7	さいとう やすのり 齋藤 康則	東北学院大学経済学部准教授
8	さとう なおよし 佐藤 直由	東北文化学園大学医療福祉学部教授
9	しまくら みほ穂 島倉 美穂	公募委員
10	すがい しげる 菅井 茂	仙台市連合町内会長会会長
11	すずき かずひこ 鈴木 一彦	仙台市立南材木町小学校校長
12	なかやま せいこ 中山 聖子	NPO法人ハーベストキャリア教育コーディネーター
13	よしだ ゆうや 吉田 祐也	学校法人尚絅学院職員
14	わたなべ ひろし 渡辺 博	仙台市議会議員

仙台市公民館運営審議会 審議経過

【平成 27 年度の審議経過】

開催日	会議種別	協議議題
11 月 10 日(木)	定例会	○委嘱状交付式 協議:(1)会長, 副会長選出 (2) 会議の公開, 非公開について (3) 議事録及び署名人について (4) 公民館運営審議会定例会の日程について 報告:(1)審議会の運営について (2) 各区中央市民センターの区役所への移管にかかる事業検証報告書(案)について
1 月 28 日(木)	定例会	審議:(1)今期の審議の進め方について (2)今期の仙台市市民センター事業の評価について 報告:各区中央市民センターの区役所への移管にかかる事業の検証について
3 月 24 日(木)	定例会	審議:今期の仙台市市民センター事業の評価について ○話題提供

【平成 28 年度の審議経過】

開催日	会議種別	協議議題
5 月 26 日(木)	定例会	審議:今期の仙台市市民センター事業の評価について
6 月 29 日(木)	視察	○事業視察及び事業参加者へのヒアリング(黒松)
7 月 6 日(水)	視察	○事業視察及び事業参加者へのヒアリング(黒松)
7 月 28 日(木)	定例会	審議:(1)職員へのヒアリング(黒松) (2)事業評価についての意見交換
8 月 27 日(土)	定例会	○事業視察、事業参加者及び職員へのヒアリング(富沢)
9 月 1 日(木)	臨時会	審議:事業評価についての意見交換
11 月 10 日(木)	定例会	審議:今期の仙台市市民センター事業の評価について
1 月 26 日(木)	定例会	審議:市民センター事業評価報告書(案)について 報告:区中央市民センター事業(重点 3 事業)について
3 月 23 日(木)	定例会	審議:(1)市民センター事業評価報告書について (2)今後の進め方 報告:平成 29 年度 市民センター主要事業について

【平成 29 年度の審議経過】

開催日	会議種別	協議議題
5 月 25 日(木)	定例会	審議: 仙台市市民センター事業評価の実施状況について 報告:
8 月 3 日(木)	定例会	審議: 市民センター事業運営懇談会等実施状況について 報告:
8 月 24 日(木)	定例会	審議: 仙台市市民センター事業評価に関する意見について 報告:

仙台市市民センター事業評価報告書

平成 29 年 3 月 23 日
仙台市公民館運営審議会

I 評価の目的

「仙台市市民センター事業の評価のあり方について（答申）」（平成 25 年 5 月 31 日仙台市公民館運営審議会）に基づき、評価の目的は次のとおりである。

- ① 「施設理念と運営方針」に掲げる社会教育施設としての機能や役割を的確に見きわめ、それらが十分発揮されているかどうか、実態を明らかにすること
- ② 担当職員や行政組織とは異なる立場から事業の良い点や問題点を明らかにし、併せて改善策を提示すること
- ③ 事業を実施した館だけでなく、各館に共通する課題の解決方向を示すことによって、多くの職員のふり返りを促し、よりよい市民センターのあり方を示唆すること

II 評価の実施

1 評価の基本的方針

- ① 「施設理念と運営方針」に掲げる役割・機能のうち、特定の機能に焦点を当てた評価とする（評価テーマの設定）。
- ② 市民参画型の市民センターの事業を評価対象事業とする。
- ③ 評価の視点等をあらかじめ設定するとともに、評価シートを作成し、それに基づき評価を行う。

2 評価テーマ及び評価の視点

（1）評価テーマ（資料 2：「事業評価シート」参照）

「施設理念と運営方針」に掲げる「地区館（地区市民センター）の基本的な役割」を評価テーマとし、各評価対象事業の内容に応じて、地区市民センターの 5 つの機能【地域住民本位の生涯学習拠点機能】【地域の交流・拠点機能】【地域のコミュニティづくり機能】【地域のコーディネート機能】【地域の情報ステーション機能】に掲げられている 1 2 の役割を基本として、最も該当する役割 2 点に着目して評価することとする。

（2）評価の視点（資料 2：「事業評価シート」参照）

評価テーマについて、次のとおり評価の視点を定めて評価する。

I 事業目的・目標の設定について

- ① 地域のニーズや課題を踏まえた上で設定し、かつ、適切なものであったか。

II 事業プロセスについて

- ① 参加者間で事業の目的・目標が共有されているか。
- ② 参画が可能となる事業内容・手法となっているか。
- ③ 参画を支援する体制・職員のはたらきかけがあるか。

III 事業成果について

- ① 事業の目的・目標が果たされているか。
- ② 期待した事業効果が生じたか。

- ③ 社会的波及効果が期待できるか。

3 評価対象事業について

(1) 対象事業

事業評価の対象事業は次のとおり。

- 市民企画会議「女性のための講座企画会」 黒松市民センター
- 「富沢アクティブエイジングサロン」 富沢市民センター

(2) 対象事業の選定理由

- ① 本審議会では、平成 23 年度事業の試行的評価も含め、平成 25 年度までは各区拠点館の「参画」事業を評価対象とし、平成 26 年度は、震災を踏まえた復興関連事業や防災・減災関係事業に取り組んできた地区市民センターの事業（指定管理者が実施）を評価対象とした。今期は、地区市民センターに取り組んでいる市民参画型の事業の中から、必須事業として全ての地区市民センターが実施している「市民企画会議」と、指定管理者が長期的な視点で人づくりに取り組んでいる「複数年事業」から選定することとした。
- ② 対象の地区市民センター事業については、地下鉄南北線に隣接し、地下鉄開業後急速に人口が増加し、利便性の良さから地区外からの利用が多いという共通点があるものの、昭和 47 年開館し、団地の発展とともに事業を行ってきた黒松市民センターと、急速な宅地化の真ただ中にあり、高層マンションと昔ながらの農地が共存した地域にある富沢市民センターの 2 館において実施している事業の中から、事業内容、関係者へのヒアリングや事業視察の可能性等の状況を考慮して評価対象事業を選定した。

(3) 対象事業の概要

資料 3：「事業計画概要書」のとおり

4 評価の方法

(1) 資料等による事業内容の把握

対象事業に関する資料や職員からの説明により、事業内容や成果等を把握

(2) 事業関係者等へのヒアリング及び事業（講座）視察の実施

- 黒松市民センター 佐藤会長、阿部委員、島倉委員、菅井委員、渡辺委員
齋藤副会長、市瀬委員、幾世橋委員、小地沢委員、鈴木委員、
中山委員、吉田委員
- 富沢市民センター 佐藤会長、齋藤副会長、市瀬委員、小岩委員、齋藤委員、
島倉委員、菅井委員、渡辺委員

(3) 評価テーマ及び評価の視点を記載した評価シートにより評価を実施し、評価シートを作成する。

(4) 評価結果等を報告書として取りまとめる。

5 評価のフィードバック等

- (1) 評価結果を全市民センターに周知し、今後の市民センター事業の企画立案、事業実施等の参考とする。
- (2) 対象事業を実施した市民センターにおいては、今後の事業の改善に向け、具体的な対応を検討する。

6 評価経過

- 平成 28 年 1 月 28 日 定例会 評価対象事業・方法の検討
- 平成 28 年 3 月 24 日 定例会 評価対象事業・方法の検討
- 平成 28 年 5 月 26 日 定例会 評価対象事業・方法の決定
評価対象事業の内容・成果の把握
- 平成 28 年 6 月 29 日 事業視察及び事業参加者へのヒアリングを実施
(黒松市民センター)
- 平成 28 年 7 月 6 日 事業視察及び事業参加者へのヒアリングを実施
(黒松市民センター)
- 平成 28 年 7 月 28 日 定例会 職員へのヒアリングを実施 (黒松市民センター)
事業評価についての意見交換
- 平成 28 年 8 月 27 日 定例会 事業視察、事業参加者及び職員へのヒアリングを実施
(富沢市民センター)
- 平成 28 年 9 月 1 日 臨時会 事業評価についての意見交換
- 平成 28 年 11 月 10 日 定例会 事業評価報告書(案)についての検討
- 平成 29 年 1 月 26 日 定例会 事業評価報告書(案)についての検討
- 平成 29 年 3 月 23 日 定例会 事業評価報告書(案)についての検討

III 評価の結果

1 各事業の評価

(1) 市民企画会議「女性のための講座企画会」(黒松市民センター)

<評価できる点>

【事業の目標・目的の設定】

- ・高齢化によるシニア単身女性の増加や、子育てで孤独感を感じている若いママの存在など、地域が抱える課題を把握している。
- ・「女性が地域活動に参画できる市民力を醸成する」という設定は、地域づくりに女性の視点を入れ、籠もりがちな 50~60 代を地域に取り込むという課題に向き合う人材育成につながり、地域の課題に即している。
- ・黒松地区では女性たちを中心とした地域活動が盛んであるが、その活動に十分に取り込めていない層があることに課題意識を持ち、「女性たちのネットワークづくりを促進すること」を目指していることには好感が持てる。
- ・前年度からの地域の現状や課題をふまえつつ、職員が普段から情報として収集している地域のニーズや課題と、企画員が普段の生活の中から住民目線で感じる地域ニーズや課題に基づいた企画を立案

しており、適切に目標設定がされている。

【事業プロセスについて】

① 参加者間で事業の目的・目標が共有されているか。

- ・企画員が、子育てに悩み一人である女性や一人暮らしの高齢者など、引きこもりがちな住民を自宅から出られるような楽しい企画にしたいという思いを共有している。
- ・企画員の会話の中から、女性の社会参画、高齢者の引きこもり防止、世代間交流および地域間交流を意識している発言（自分の地域以外の人たちとの交流ができる、既存地域団体以外との交流ができる等）があり、参加者間で目的が共有できていると考えられる。
- ・「女性のための講座企画会」は多様な地域住民が気軽に集い、楽しく交流のできる場と機会を提供しており、市民センターを拠点とした交流目的に沿ったものになっている。

② 参画が可能となる事業内容・手法となっているか。

- ・まずは自分たちが「楽しい!」「やってみたい!」と思うことを企画・アピールし、地域の人に興味を持ってもらい、巻き込みたいという手法には好感が持てる。
- ・自分たちが企画したことをさらにいいものにしていきたいという思いがあり、次の企画を子育て世代も参加できるように、曜日を再考するなど企画力がついてきている。
- ・昨年度の講座運営の中で企画員同士の交流が深まり、継続している企画員数、および新規で参画した企画員数を考慮すると、事業に参画しやすい手法となっているといえる。
- ・フラダンス、料理、リースづくりなど、女性が期待する内容で、なおかつ気軽に参画できる事業内容・手法となっている。

③ 参画を支援する体制・職員のはたらきかけがあるか。

- ・職員が企画員を見守り、気軽に話ができるような場の雰囲気づくりが良かった。
- ・女性同士がおしゃべりを楽しむような雰囲気から色々なアイデアが出ている中で、講座名称を検討する際など、職員が議論を整理・誘導する場面があった。要所所で議論が空中戦にならないように職員がサポート役として情報をまとめ、物事をしっかりと決めることができている。
- ・中堅職員と新人による2人体制で本事業に取り組んでいる。館長も職員に対してのびのびとできるような声かけを行っており、センター内の支援体制も充実している。

【事業成果について】

① 事業の目的・目標が果たされているか。

- ・地域を基盤としたサークル活動や市民活動の育成・支援に努めるという目標は達成されている。
- ・多様な地域住民が気軽に集い楽しく交流する場と機会を、女性の視点とつながりを生かして提供できている。
- ・企画された事業の参加者の声から、個人的に抱える課題（被災経験や孤立化）などの解消につながっていることがわかる。

② 期待した事業効果が生じたか。

- ・企画員の間で、活動がないときでも個人間の交流が生まれている。
- ・1年目は公募した企画員による体験型講座が実施できたこと、および体験型講座に多くの参加者があったことが成果であるといえる。また現在進行している2年目の企画にも、昨年度の講座参加者が企

画員として参加するなど、事業の主体となる人材が発掘できていることが成果であるといえる。

- ・1年目を振り返り、2年目に活かそうとする意識をメンバーは持っており、参加者層を拡大し、楽しんでもらうことで参加しやすい場を作ろうとしていて、企画員の主体性も高まっている。

③ 社会的波及効果が期待できるか。

- ・多くの団体に関わっている方が企画員に多いので波及効果やネットワークは取りやすいと考える。
- ・企画員同士の今後のつながりも注目したい。

<改善に向けた提案等>

【事業の目的・目標の設定】

- ・フラダンスや料理教室のような一見カルチャー的に見える団体やサークルの活動においても、しっかりと企画の意義付けを行えば、単なるカルチャー的な講座から、地域課題をテーマにした講座になる。地域課題や課題解決を意識しつつも、それを押し付けすぎると現状の楽しい雰囲気は損なわれることを考慮しつつ、中長期的な視点で職員と企画員（全員でなくとも1～2人でも）がともに地域課題をどう問題化、共有化していくかの方法（ロードマップづくりなど）を検討する必要がある。
- ・企画の実施は出会いやきっかけを見いだす手段と捉え、3年目を迎えるに当たって、2年間のPDCA、特に地域課題に照らし合わせて分析する機会を持つと良い。
- ・内容が楽しいのは良いとして、引きこもりがちな女性たちが実際に興味を持つテーマになっているか疑問である。地域のみなさんに幅広くアンケートやヒアリングなどを行い、講座にフィードバックしてみてもどうか。
- ・「地域の課題を踏まえた上で女性たちが地域課題に向き合い解決する講座」であるが、気軽に集い、楽しく交流できる場の設定と、個人的課題に向き合うこと、あるいは、地域課題に向き合い解決することの間には乖離があり、それらをつなげていく方法を考えていく必要がある。

【事業プロセスについて】

- ・企画会議は昼間に限定されており、時間的に参加出来る人が限られる。別の時間帯での開催も検討していくと、子育て世代や勤労世代など参加層も拡大し幅広い意見も出てくるのではないかと。
- ・企画員について、事前に声がけをした人や、以前から市民センターを利用している方々に留まらず、今後若い人や中間層も参加できるような工夫が必要である。
- ・世代間のギャップをコミュニケーションの力で埋めることも重要。黒松エリアの若いお母さんたちが事業に参画して積極的に盛り上げていくと、長いスパンでみて風土も変わってくる。先輩（お年寄り）が新米ママをサポートするなど、みんなが活躍できる場、出番を作っていけば、それが外に出ていくことにつながる。
- ・1年目の体験型講座の参加者は60～70代の女性が多かったことの反省を受け、2年目は50～60代の取込みを目標に定めて講座の企画を議論したが、企画員が3回にわたってブレインストーミング手法により意見出しを行ったため、アイデアが発散してしまい、当初の目標に沿った議論が十分に行われたとはいえない。50～60代の関心事を掘り起す作業をヒアリングなどにより行い、このことを受けたテーマ設定や日程設定が行われるようセンター職員が助言すべきである。
- ・企画員が3回にわたって体験型講座のテーマ設定のみを議論することで企画づくりが終わってしまったのが残念である。講師選定の上での条件決め、広報の方法の開発など、企画づくりの肝心の部分にたどり着いておらず、企画員にとっても拍子抜けした様子がうかがえたことが課題である。センター側の計らいで、4回目の議論の機会が設けられたことはよかったが、3回で企画づくりをどのよう

にまとめあげるかの視点がセンター側に欠けていたように思われる。

- ・企画員がもっと関わろうとする意欲が窺えた部分（講師選定など）があり、そこが更なる参画へと進むポイントであるという認識が職員に不足していたように思えた。「参加」から「参画」へと変わるターニングポイントを見逃さず、適切な関わり方をしていくことが重要である。

- ・当初の目標が検討手法の稚拙さによって果たされない可能性があることは非常にもったいなく、センター職員の企画づくりの技術向上が期待される。

- ・「参画」の段階は、市民センター主導で「意思決定に企画員が参画」という印象が強い。その先にある「企画員主体の活動」そして「企画員主体の活動に市民センターを巻き込む」レベルをイメージしてファシリテートすると、更に進行役職員の持ち味が活かされる。

- ・2名の職員が役割分担して、「会議が見える化」できていくともっと良い場になる。司会・進行のサポート役と、ホワイトボード等での記録サポート役などを職員が最初は実践し、すこしずつ企画員にノウハウを移行していけるとよい。

【事業成果について】

- ・本市民センターの他の事業を繋げ、全体像を職員同士が共有し、成果と課題を整理すると次に目指すものが見えてきそうである。全体を繋げることで、地域の人材も新たな視点で見えてくるのではないか。

- ・事業の「社会的波及効果」は、市民企画員と講座参加者が企画に参加したあとで、そのネットワークがどう生かされたのかを見ないとわからない。企画の終了後もモニタリングを続ける必要がある。

【その他】

- ・「女性のための講座企画会」は、3か年事業の段階を迫った目標が設定されていないため、何をもって目標を果たしたか、評価し得ない。

- ・事業の目的・目標が果たされているかの評価は、評価基準がはっきりしないので難しい。

- ・事業効果・成果の指標を設定するにあたり、講座実施数や参加者数に加え、中長期的な指標として「企画員の自立」に関する指標があるとよい。

- ・市民企画会議を継続することで、現在の企画員が地域の中で活躍したり、さらに多様なターゲットが主体となった市民企画会議の開催にもつなげることができる。好循環が回り始めた途上にあるので、センター職員の異動があった場合でも事業の継続性が担保されるようなフレームづくりが生涯学習支援センターに求められる。

- ・市民参画の推進と市民活動の育成・支援という点でいえば、現行の市民センター事業が終了すると、団体運営のノウハウがない企画員が継続して地域課題に取り組むことが難しい。職員が研修の一環として、資金調達、情報発信等の市民活動・NPOセンターと連携して団体運営のノウハウを習得する機会（仙台市市民活動サポートセンターの「NPO いろは塾」、みやぎ NPO プラザの「NPO 夜学」など）をつくり、企画員の「自立」を見据えた職員のサポートが求められる。

- ・まちづくり、絆づくりは時間のかかるものなのでじっくり行う必要がある。最終的には、女性の活性化にあわせて地域づくりや防災、次世代を担う子供たちの見守りなどに広がるように方向性を持ってほしい。

- ・担当の職員は、できるだけ企画員の意見を重視して、うまくファシリテーションされていたが、すべての職員がこのようにできるのだろうかと不安も残る。

- ・市民センター職員はコーディネーターとしてのスキルアップが必要である。

・「地域の課題を踏まえた上で地域課題に向き合い解決する講座」としては、まず、楽しく交流のできる場と機会の提供を行い、次に、ネットワークの中で、被災経験や孤立など個人的な課題や家庭的な問題の一端が解消される段階に、さらに、防犯、孤立、虐待など多様な課題を抱える地域に向け働きかけを行っていくという段階が考えられるが、この3つのプロセスにはかなり距離があり、地域課題を掘り下げて社会的な波及効果も得られるような活動へ発展させるには、ステップを踏んだ働きかけが必要なのではないかと。

(2)「富沢アクティブエイジングサロン」(富沢市民センター)

<評価できる点>

【事業の目的・目標の設定】

・「地域における旧住民と新住民の交流が課題」との認識があり、その課題解決のために考えられたプログラムとなっており、目的・目標の設定は適切である。

・超高齢社会の現在、社会問題の一つとして、お年寄りの孤立を防ぐことは重要であり、仲間づくりのきっかけとしても良い企画である。

・事業計画概要書(資料3)の事業目的「地域のシニア世代の交流」については適切と考えるが、「地域リーダーとなる人材の発掘・育成」については、「地域活動デビュー」を果たしたばかりのメンバーからなるこの事業に関連づけることは、少し難しかったかもしれない。

【事業プロセスについて】

① 参加者間で事業の目的・目標が共有されているか。

・参加しているメンバー同士は自主的・積極的に活動し、皆同じ方向を向いているように感じられた。

② 参画が可能となる事業内容・手法となっているか。

・最初は皆でやっていたが、3年目からメンバーひとり一人がそれぞれ責任者として事業の企画運営をしているというように、段階を踏んで無理なくやれる工夫がなされている。

・昨年度、一昨年度より継続参加しているメンバーが多いので、この間にメンバーがそれぞれの個性・特性を理解できるような人間関係が作られてきた。事業の各場面において、各自の得意分野を生かせる様子も見られ、そのことがメンバーの実質的な参画につながっているように思われる。

・市民センターの館長がメンバーの反省会に参加したことも、市民センター側の思いが参加者に伝わる機会となっている。

・メンバーが主体的に活動を行っている。また連携して取り組む姿勢も多々見られた。

③ 参画を支援する体制・職員のはたらきかけがあるか。

・メンバーの生きがいを見つけられるような企画運営がなされており、館長、職員がメンバーの不安要素を解消するなど心理的にもサポートしており、市民センターの支援や働きかけは十分行われている。

・「センターが、職員が(本事業を)育ててくれた」というメンバーの言葉があり、この事業に対する市民センターの職員の関わり方は良い意味で積極的である。

・担当職員は今年の異動により新たに担当になったが、丁寧な引き継ぎがなされたことで事業の方向性を十分に理解できていた。

・「市民センターに集まって、企画を考え職員の方と過ごす時間が楽しい」というメンバーの意見もあったことから、メンバーと職員とのコミュニケーションが出来上がっており、とてもよい雰囲気で作

られていた。

- ・職員が縁の下の力持ちとして、実践的にも心理的にもサポートしている。

【事業成果について】

① 事業の目的・目標が果たされているか。

・当初は、参加ではなく参画という手法に戸惑いを覚えたメンバーが、「ただ参加するだけに止まらず、自分たちでアイデアを出すことが楽しい」と考えるに至り、事業のさまざまな場面において、「責任者」という形でリーダーシップを発揮できるようになっており、事業目標はおおむね達成できているように思われる。

② 期待した事業効果が生じたか。

- ・自主的に企画・立案するということがかなり達成され、事業効果は出ている。今後は企画した事業に参加した人々が、メンバーに加わるようになるとさらに素晴らしい。
- ・メンバーが自主的・積極的で、かつ和気あいあいと互いに尊重しあい心を開いている。連携して取り組む姿勢も見られ、4年間にわたる成果であると言える。
- ・講座が3年で終了するとなかなか続かない傾向がある中で、4年目も市民センター事業として取り組んでいる。参画も段階があることから、積み重ねていくことで、市民協働による地域課題解決に取り組める形が見えてくる可能性が高い。

③ 社会的波及効果が期待できるか。

- ・期待する事業効果（資料3 P.5）として地域リーダーの技の修得とあるが、メンバー間でもお互いの意見を聞き、活発な発想が交わされていたので、近い将来、ひとり一人が市民センターで学んだスキルを活かして活躍することを期待したい。
- ・館長が企画会等に顔を出す、担当者が変わっても引き継ぎが滞らないなど、市民センター全体で施設理念と運営方針を大事にしており、利用者との顔の見える関係づくりを丁寧に行い、信頼感を高めている。

<改善に向けた提案>

【事業の目的・目標】

- ・「富沢アクティブエイジングサロン」は、市民参画、市民の活動の育成・支援事業としては適切であるが、地域活動を担う人材の育成、地域リーダーの育成事業としては改善が必要である。
- ・事業の目的・目標の全てが共有されているとはいえない。センターの真の狙いと参画しているメンバーの目標が一致するような仕掛けがほしい。
- ・複数年かけてのシニア世代の交流事業としての目的は果たされているが、自立し各地域に戻って地域リーダーとして活動するという声が多かったこと、市民センターの支援を受けながら自分たちができることをやっていきたいという意見が多かったことなどから、企画運営を学ぶ場・地域リーダーの育成につなげるには次の段階での工夫が必要である。
- ・メンバーの中には自分の地元を離れた市民センターでの活動だからいいという方もいて、この事業の目標である「地域のリーダーの育成」に導く企画が必要と感じた。たとえば、「富沢にある様々な施設、児童館、学校などで活動する」、「地域で活動している人たちの現場訪問または講話で学ぶ」や、「地域リーダーとしての企画運営のスキルを学ぶ」などが考えられる。
- ・地域との関係がうまくいけば、社会的波及効果も上がると思うので、この事業は最終的に地域との

関係がキーポイントになる。市民センターが積極的に地域との関係構築に働きかけることが大切である。

【事業プロセスについて】

- ・誰でもがこのプログラムに参画できるかと考えると、消極的・受け身的な人には難しいのではない。特に企画段階では積極性が求められる。ただし、このメンバーに入ると積極的にならざるを得ないと考えると、このメンバーに入ることがまず参画の第一歩となるだろう。メンバーが企画した事業を通して一般の人々に訴えて、メンバーに加入するようアピールすることが大切と思う。
- ・新規のメンバーが加入していない点が気になる。人数が多くなりすぎると「参加の輪」が拡散し、責任の所在が不明確になる等の弊害もあるが、固定的な関係性はメンバーにとって居心地が良い反面、外部に閉鎖的な印象を与えることもある。こうした点について、職員だけでなく参加者自身がどう考えるかが課題となる。
- ・講座に参加する人たちの動機をしっかりとつかむことも大切である。

【事業成果について】

- ・育った人材が活躍できる場所の紹介を、市民センターが行っていく必要があるのではないかと。
- ・サロン活動については十分な支援があるが、「地域における旧住民と新住民の交流コーディネート」という課題の解決を目的とした活動にするためには、市民センターがサロンのリーダーと地域を結びつける仲立ちとなることが必要で、メンバーと地域代表などとの継続的な交流を図る懇談会が必要と考える。市民センターが積極的に地域との関係構築を働きかけることが大切である。
- ・市民センターのある地域と離れた地域から参加している人がいることは、評価を複雑にしている。広い範囲から来ているということで多くの市民を受け入れていく上では素晴らしい。しかし、地域の人材育成や地域のコミュニティづくりという点では課題ではないか。
- ・「富沢アクティブエイジングサロン」のメンバーは、ほとんどが新住民であり、町内会関係者など旧住民との関係をどのように構築するかが今後の課題と考える。

【その他】

- ・参加しているメンバーは積極的で、市民活動を進める人材育成になっているが、地域のコミュニティづくりに参画し、地域のリーダー的存在として、さまざまな活動を仕掛けていく側になるには、もう少し時間がかかるのではないかと。
- ・市民センターでの楽しいサロンから自分たちで築くコミュニティデザインへと、市民センターは後方支援からアクティブサポートをしていく段階と考えられる。
- ・あるメンバーから「自分自身を知られていない地域（で活動すること）の気楽さ」という発言が聞かれた。これまで、市民センターは「居住する地域」での活動、協働の拠点として位置づけられてきた。とりわけ防災、福祉などの生活課題は、この「居住する地域」という文脈において浮上するテーマだといえる。しかし、ボランティアグループ、NPO など、活動主体が多様化している現実を見ると、「居住してはいないが、活動している」人々の存在を視野に入れながら、市民センターの事業内容を組み立てることも必要なのかもしれない。そうした「地域間交流」が地域の活動をより豊かにしていくことは十分ありうる。

2 総合評価・まとめ

(1) 総合評価

以上のように、平成 27 年度から平成 28 年度に実施している 2 つの市民参画事業を対象に評価を行ってきた。

①「女性のための講座企画会」(黒松市民センター)

平成 27 年度からスタートした「女性のための講座企画会」は、継続参加の企画員、新規で参加した方と市民センター職員とのコミュニケーションが上手く取れており、地域が抱える課題をよく把握していた。女性が楽しめる講座を企画することで、企画員が交流の場の必要性を実感し、さらに活動していきたいという意欲も生まれてきている。

一方、一回の視察、企画員と職員へのヒアリングだけでの評価には限界があるが、講座のこれからの展開を考える上では、もう少し工夫が必要ではないかという指摘が多く出された。特に、事業プロセスについて多くの意見が出された。

「引きこもりがちな高齢者や子育て等でなかなか参加できない方達に、どう声掛けして参加を促すか」は、この企画会で共有されている課題である。この課題のアプローチとしては、企画員側も楽しむことを大切にし、高齢者の引きこもり防止、女性の社会参画、世代間交流・地域間交流等などについて、どこか頭の中で押さえつつ、場づくりを行っていくことが重要であり、その上で地域の課題を解決していく次のステップをどう考えていくか、そのような問題意識を持ってもらうための工夫が必要である。

また、市民センターからの情報発信のあり方として、たとえば、子育て世代に対しては、児童館や医院などに市民センターのチラシが置いてあれば目にする機会が増え、子育て世代の人達が検診で医院を訪れたときや公園に集まって話をしたときに情報を共有することで、参加のきっかけにもつながる。いつも同じ場所ばかりではなく、色々な場所、機会をとらえて発信していくことが大切であり、どのように情報発信し、その情報を受ける側がどんな形で受け取っているのかを把握する必要がある。

評価全体に関しては、話し合いの仕方や目標に沿った活動ができており、女性のネットワークづくりにうまく効いているという意見もあれば、そのネットワークづくりにはもう少し踏み込んだ下調べや企画が必要ではないか、といった意見がある。評価軸をどう立てているかという点がこの評価、判断の分かれ目になるタイプの事業だったと思われる。市民が事業を企画する、そして参画するということに対しての事業としてのフレームづくり、目標設定、評価設定のあり方が改めて重要になってくる。それは事業を企画した市民センターや参加した市民の問題だけではなく、生涯学習支援センターとしてそもそもこの事業のフレームをどう位置付けているのか、根本に関わる問題であろう。

②「富沢アクティブエイジングサロン」(富沢市民センター)

平成 25 年度から継続している「富沢アクティブエイジングサロン」は、事業の目標・目的の設定がうまくできており、職員の支援体制・職員の働きかけについても、色々工夫がなされて、メンバーと市民センター職員の意思の疎通がきちんと図られていた。メンバーの自主性、活動力が向上してきている様子がうかがえる。

一方、地域活動を担う人材の育成、地域リーダーに関しては、参加した方達が地域リーダーとして自主的に活動するようになるまでにはまだもう少し時間があるいは段階が必要ではないかという意見が多く、もっと仕掛けが必要ではないかという指摘があった。

また、富沢地域、太白区に住んでいない方が参加していることに対しての指摘もあり、地域間交流や参加する人が広がっていくことで、もっと広い視野での地域人材の育成にもつながる期待も感じら

れた。

市民センターに集まっていること自体が楽しいということが非常に感じられる事業であり、メンバーにとってこのような経験が生かせる場所の提供や提案等があれば、地域活動を担う人材の育成、地域リーダーの育成についての次へのステップアップが可能となる。事業に参加して、企画して一生懸命取り組めばそれで自立できるかという、そう簡単ではなく、その後もメンバーの自立を促す、支えるためのノウハウの講座や職員のサポートが必要であろう。地域コミュニティのリーダー育成という目標を考えると、あまり長い時間をかけることなく、メンバーが今頑張っていることを応援しながら早めにネクスト・ステージに導くことが必要であり、この方たちが地域で何らかの活動に関わることになることが大切である。

参加している人達が参加から参画に移行した動きをしていることは一つの成果であるが、参画まで達しても、その後が問題となる。この事業に参加しているメンバーはアクティブであり、話し合いもしっかりできる。そのような財産を今後、どのように伸ばしていくのか、市民センター側でしっかりと考えていく必要がある。

③ 市民参画型の事業について

今回は上記 2 事業以外に実際の事業は視察しなかったが、市民参画型の事業は各市民センターで実施されているところである。

市民参画型の事業はいかに参加者の主体性を引き出すかが重要なポイントであり、今回取り上げた黒松、富沢両市民センターとも参加者への対応を丁寧に行っていた。実際に事業を進める際には、市民センター全体で関わるのが大切であり、両センターとも館長と職員がお互いに補完し合い、チームワークを大切にしていた。また、職員のファシリテート力などスキルも高く、市民参画型事業としては着実に成長しており、市民の主体的な活動を支えられるような段階に来ていると思われる。

市民参画型事業の目的として掲げられることの多い「リーダーの育成」については、成人については、その手法について今一度考える必要がある。リーダー育成は短期間でできるものではなく、段階を踏んだ支援が不可欠である。地域には実際にリーダーとして活動している人、リーダー経験のある人が多くいるはずであり、そういった人たちを見出して、市民センターの活動の場に加わってもらうことも効果的である。大人同士の交流の中で学び合い高めあえる状況を作り出すこと、そこに市民センターの役割があり職員への期待は大きいし、職員の研鑽もさらに必要であり、職員の資質の向上に向けた各種研修の機会の提供と内容のさらなる充実を求めたい。

また、子ども時代から市民センターに関わってもらうことも重要である。市民センターの「子ども参画型事業」に参加した子どもたちがジュニアリーダーになり、大学生、社会人になったら、また市民センターの事業に関わるという事例があり、将来の核になる人材が育っている。子どもが市民センターに関わることで、多世代交流も図られる。

市民参画型事業の大きな目的である「地域課題の解決」については、地域内での連携、ネットワークづくりが重要であるが、地域を超えた広域での連携の効果も指摘したい。コミュニティに外からの視点を入れることで活性化する可能性があるし、広域連携で活躍・活動できる場が広がり、また新たな展開があるかもしれない。そのためにも全市民センターでの事業実施や研修で得た地域課題解決に向けた手立てを共有し、実践に活かしてほしい。

(2) まとめ

① 評価のあり方と実施

今回、評価の対象となった事業について、主に事業評価シートにそって視察・ヒアリングを行い、

内容を把握したうえで委員同士の話し合いの中で評価をまとめた。その結果、概ね適切に実施されており、市民の参画による講座の企画を行う事業として重要な取り組みであると判断した。

ただし、事業目標の「地域課題の解決」や「リーダーの育成」を考えると、この事業単体で評価するのは困難であり、事業終了後はどうなったのかまでの検証をどうするかという課題が残る。事業も複数年で行われており、評価する時点での到達度をあらかじめ設定したうえで行うという方法を検討することも必要である。

② 評価の目的

本審議会の評価は、事業の良い点や課題と考えられる点を明らかにし、併せて改善策を提示することにある。それは実際に評価した事業だけではなく、他の市民センターにも共通する課題や解決方向を示唆することにもなる。

今回、多くの委員から、ファシリテート力を身に付けた職員がさらに地域を深く知り、円熟味を増していけば、地域の課題を皆で協働して解決していくという取り組みにつながるという期待も述べられた。2つの事業で指摘した課題や提案を受け止め、事業の改善に活かしていただければ幸いである。

③ 事業の発展に向けて

本審議会でも市民センター事業の評価を行うのは今回が5回目となる。様々な立場や背景を持つ委員が、市民センターに対する期待を前提としながら、市内60館すべての市民センターの充実につながることを願って評価を実施してきた。これまでの評価が市民センターの取り組みの改善に実際に活かされてきたのかどうか、改めて検証が必要であり、評価の対象となった市民センターはもちろん、全ての市民センターからのフィードバックをお願いしたい。

そして、市民センターには、評価に伴う見直しの成果や、事業の実施において新たに見えてきた課題、事業参加者が活動しやすくなるために必要な環境の整備など、ぜひ積極的に情報提供、要望等を行っていただきながら、事業参加者の主体性を引出し、その方々が地域や社会で活躍する段階まで、ぜひ関わってほしい。

なお、今後の事業評価については、「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」に則った地区館の5つの基本的な役割を踏まえ、各市民センターが設定した館の事業目標に即した事業を展開できているかどうかという各館の事業全体にわたる評価や、実施している事業のプロセスに重きをおいた評価をしていきたい。あわせて、本審議会での評価のあり方が、市民の市民センターへの期待によりよく応えていくことができるような評価として適しているかどうかについても継続して見直していく。

■ 地区館(地区市民センター)事業の評価項目

※「市民センターの施設理念と運営方針」の「地区館(地区市民センター)の基本的な役割」より

地区館(地区市民センター)の役割		内容(成果目標)	
1	地域住民本位の生涯学習拠点機能	①	学習ニーズ・地域課題を踏まえた特徴ある事業の実施 地域住民を対象にしたアンケート調査や懇談会、日々の地域情報の収集などを通して地域住民の学習ニーズと地域課題を把握し、目的を明確にした上で特徴ある事業を実施する。
		②	事業の魅力づくりと参加しやすい条件づくり 事業の企画にあたっては「学びを通じての人と人とのつながり」を基本方針とし、地域住民が楽しく参加したくなるような工夫(魅力づくり)や参加しやすい条件を整えるよう努める。
		③	市民参画の推進と市民の活動の育成・支援 市民自らが学ぶことで主体的な活動が地域で多様に展開できるよう、市民参画による事業を積極的に推進するとともに、地域を基盤としたサークル活動や市民活動の育成・支援に努める。 【黒松 市民企画会議「女性のための講座企画会」事業】 【富沢 「富沢アクティブエイジングサロン」事業】
2	地域の交流・拠点機能	①	地域住民の交流の場、及び子どもたちの育成・交流の場の確保 多様な地域住民が気軽に集い、楽しく交流のできる場と機会を設ける。特に、地域の中で見守られ育まれるべき次代を担う子どもたちのための子育て支援と青少年の育成・交流の場の確保に配慮する。 【黒松 市民企画会議「女性のための講座企画会」事業】
		②	様々な地域ネットワークの拠点機能＝プラットフォームの確保 地域にある様々な団体、NPO、ボランティア組織等が共通の地域課題のもとに集まれるネットワークの拠点としての機能(プラットフォーム)が持てるよう努める。
3	地域のコミュニティづくり機能	①	コミュニティ意識の醸成 地域住民と協働し、地域の歴史・自然・行事などの地域資源を活かした地域文化の継承と創造の事業に継続的に取り組むとともに、地域の魅力と課題の発見を通して、多くの地域住民が地域と関わることができるよう積極的に働きかけ、地域住民のコミュニティ意識の醸成を図る。 片平「クローズアップ片平・映像番組づくり」事業(H26評価)
		②	地域活動を担う人材の育成 地域課題を踏まえ、地域の関係団体やNPO等と連携しながら、地域での多様な活動を担う人材の育成に努める。この場合において、幅広い世代の人材育成にも配慮しながら取り組む。 【富沢「富沢アクティブエイジングサロン」事業】 七郷「未来への伝言～七郷を語り継ぐ」事業(H26評価) 片平「クローズアップ片平・映像番組づくり」事業(H26評価)
		③	地区館事業に市民が主体的に関わる仕組みづくり 地域に根差した地区館事業を市民と協働で推進するために、地域住民が地区館事業に主体的に関わる仕組み(地域住民による地区館ごとの運営協議会等)を創り活かす。
4	地域のコーディネート機能	①	地域にある機関・団体等のネットワーク化の支援 PTA・町内会・商店街等の各種地域団体、NPOなど地域に関わる団体、学校や区役所等の公共機関等と連携し、地域住民とともに地域課題に取り組むためのネットワークが構築されるよう支援する。 田子「みんなで学ぶ地域防災」事業(H26評価)
		②	行政機関と地域との仲介・調整の窓口機能の分担 “地域の声”を施策や事業につなげるために、行政機関等と地域の諸団体等との交流拠点施設としての仲介及び調整の窓口機能を担う。
5	地域の情報ステーション機能	①	地域の資源等の保管と公開 地域にある様々な資源(歴史、文化、自然、祭礼行事、施設、人材等)などに関する情報を多様な媒体に整理・保管し、地域住民が必要に応じて閲覧し活用できる仕組みを整える。
		②	地域情報の収集と提供 地域内の学校や区役所などの公共機関からのお知らせや催し情報のほか、地域団体や各種サークル、NPOなどからの活動情報や募集情報などを随時収集・整理し、適時、地域住民に提供する。
震災を踏まえた市民センターの役割と取組		市民センターは、これまで培ってきた地域団体等とのネットワークを活かしながら、人材育成機能やコーディネート機能等を十分に発揮し、地域の防災体制づくりの支援など、地域の防災・減災に資する取組を行うとともに、地域課題の解決や地域づくりの担い手の育成に向けた取組の強化を図る。さらに、地域の生涯学習の拠点として、防災訓練等も含め、防災・減災に関する講座等を積極的に開催するとともに、震災の経験や教訓等を広く発信していくものとする。	

事業評価シート

館名・対象事業	黒松市民センター・市民企画会議「女性のための講座企画会」
評価テーマ(地区市民センターの基本的な役割・事業のねらい)	
地域住民本位の生涯学習拠点機能 〔市民参画の推進と市民の活動の育成・支援〕	市民自らが学ぶことで主体的な活動が地域で多様に展開できるよう、市民参画による事業を積極的に推進するとともに、地域を基盤としたサークル活動や市民活動の育成・支援に努める。
地域の交流・拠点機能 〔地域住民の交流の場の確保〕	多様な地域住民が気軽に集い、楽しく交流のできる場と機会を設ける。特に、地域の中で見守られ育まれるべき次代を担う子どもたちのための子育て支援と青少年の育成・交流の場の確保に配慮する。
評価の視点	評価記入欄
【事業目的・目標の設定について】 ① 地域のニーズや課題を踏まえた上で設定し、かつ適切なものであったか。	
【事業プロセスについて】 ① 参加者間で事業の目的・目標が共有されているか。 ② 参画が可能となる事業内容・手法となっているか。 ③ 参画を支援する体制・職員のはたらきかけがあるか。	
【事業成果について】 ① 事業の目的・目標が果たされているか。 ② 期待した事業効果が生じたか。 ③ 社会的波及効果が期待できるか。	

※それぞれ箇条書きで記載してください。その際、評価できる点については「○」を、改善に向けた提案の場合は「△」を冒頭に付けてください。

上記項目に該当しない事項についてご記入ください。

その他	
-----	--

事業評価シート

館名・対象事業	富沢市民センター・「富沢アクティブエイジングサロン」
評価テーマ(地区市民センターの基本的な役割・事業のねらい)	
地域住民本位の生涯学習拠点機能 〔市民参画の推進と市民の活動の育成・支援〕	市民自らが学ぶことで主体的な活動が地域で多様に展開できるよう、市民参画による事業を積極的に推進するとともに、地域を基盤としたサークル活動や市民活動の育成・支援に努める。
地域のコミュニティづくり機能 〔地域活動を担う人材の育成〕	地域課題を踏まえ、地域の関係団体やNPO等と連携しながら、地域での多様な活動を担う人材の育成に努める。この場合において、幅広い世代の人材育成にも配慮しながら取り組む。
評価の視点	評価記入欄
【事業目的・目標の設定について】 ① 地域のニーズや課題を踏まえた上で設定し、かつ適切なものであったか。	
【事業プロセスについて】 ① 参加者間で事業の目的・目標が共有されているか。 ② 参画が可能となる事業内容・手法となっているか。 ③ 参画を支援する体制・職員のはたらきかけがあるか。	
【事業成果について】 ① 事業の目的・目標が果たされているか。 ② 期待した事業効果が生じたか。 ③ 社会的波及効果が期待できるか。	

※それぞれ箇条書きで記載してください。その際、評価できる点については「○」を、改善に向けた提案の場合は「△」を冒頭に付けてください。

上記項目に該当しない事項についてご記入ください。

その他	
-----	--

黒松市民センター

市民企画会議「女性のための講座企画会」事業計画概要書

「市民センターの施設理念と運営方針」の地区館の役割の（１）地域住民本位の生涯学習拠点機能〔市民参画の推進と市民活動の育成・支援〕（２）地域の交流・拠点機能〔地域住民の交流の場の確保〕を踏まえて、黒松市民センターの事業実施方針として、「市民自ら企画し実施することにより、地域で主体的に活動する人づくりに繋げる」「様々な世代の地域住民が気軽に集い、交流できる場を設ける」を掲げ、この事業を企画している。

＜事業（講座）の背景と目的＞

黒松・八乙女地区では、震災時に子ども会育成会の母親を中心とした女性たちのネットワークがとても助けになった。現在でも女性たちは地域活動の主要な担い手であり、地域と学校との橋渡しや、男性たちを様々な活動の場に呼び込むなど、地域を盛り上げる大きな力となっている。

この事業は地域の女性たちが交流を深めながら、地域の課題を掘り下げ、ニーズに合った講座を企画運営することで、女性たちのネットワークづくりを促進することを目的とする。

（地域で活躍している団体の特色）

①黒松校区子ども会育成会

- ・30代～40代の女性が中心、男性もいる。
- ・黒松小学校が開校（1969年、昭和44年）する前の1965年（昭和40年）に発足し地域で子ども達を育てるために活動をしている。
- ・自分の子供が小学校を卒業しても、地域の子どものために活動している女性が多い。
- ・この長い歴史があったことで、平成23年の東日本大震災時には、小学校の避難所運営で大きな力となった。

②黒松婦人の会

- ・黒松地区の70代の女性を中心（会員数約50名）にして、住みやすい住環境整備のために活動している。
- ・資源回収、花壇整備（地下鉄黒松駅前、黒松保育所隣接の歩道沿い）を始め講演会、会員親睦のための旅行会など幅広い活動を行っている。
- ・地域行事への支援・協力（黒松夏まつり、黒松学区民運動会、商工会花見など）も積極的に行っている。

③子育て支援クラブ

- ・70代の女性を中心としたグループと30代～40代のママさんを中心としたグループの2つがある。
- ・活動拠点は、黒松児童館である。

④黒松小学校放課後子ども教室「わいわいパーク黒松」

- ・平成17年（2005年）開設、地域のママさんがスタッフとして運営。地域の子どもを見守り育てるボランティア活動
- ・活動拠点は、黒松小学校わいわいルーム、校庭ほか
- ・保護者が就労などにより家庭にいない児童（1年生～3年生対象の登録制）と全校児童対象（自由来館）がある。

<事業（講座）の主な内容>

①昨年度の話し合いでた現状と課題

- ・地域（黒松地区、旭丘堤地区、南光台地区）は、高齢化が進み子どもが少ない。
- ・高齢化が進んでいるために、環境整備などの地域活動の担い手の世代交代が求められている。また、家に引きこもっている高齢者（特に、一人暮らし）をどうやって外に引っ張り出すか。
- ・子育てについては、防犯や虐待などの面から意見がでた。
- ・女性問題については、社会問題ともなっている虐待に対応する女性のためのかけこみ寺のようなシェルターが必要ではないか。
- ・気軽に入れるような場所、集える場所があるとよい。

②オリエンテーション・企画検討

- ・地域の現状は？（年齢構成や家庭環境など地域の特徴を共有する）
- ・昨年度の結果を分析・反省し、今年度の方向性を共有する。

③講座実施（3回）

- ・対象とする年代は、50代と60代
- ・地域各種団体の現状とこれからの5年後、10年後を見据えて課題を解決するには、空白となっている50代を中心に「自分たちで」の意識醸成を育むことが必要である。

④反省会

<期待する事業効果>

黒松市民センター管内は、高齢化の進む黒松地区、南光台地区（4～6丁目）、旭丘堤と若い世帯が多い八乙女地区に大きく分かれる。世代が大きく異なれば地域ニーズや課題も違ってくる。この講座で女性たちが地域課題に向き合い解決する講座を企画運営することを通して、従来男性中心で行ってきた地域活動に女性の視点をいれ、自主的に地域活動に参画できるような市民力の向上とネットワークの充実が図れる。

そこから、更に大きな地域課題に対して行政機関や市民センターと連携した市民協働の事業が計画、実行できる基盤が構築できる。

<開催時期>

平成28年6月～12月

<対象>

地域住民（成人女性）

<昨年度（平成27年度）の実施状況>

「市民企画会議 女性のための講座企画会」全7回実施

（企画会3回、市民企画講座の開催3回、反省会1回）

昨年は7名の方が企画員に応募し、出席率も良く企画員同士の交流も深まった。また市民企画講座に参加した方々からも、女性の企画会に対するニーズの高さが感じられる。

フラダンス、はらこ飯作り、フラワーアレンジと、女性が楽しく学べる講座を企画・実施している。

平成27年11月11日(水)～12月9日(水)実施

《講座レポート》

～市民企画講座～

ほほえみサロン あ・ら・か・る・と

地域にひろがる
黒松市民センター

●お問い合わせ

TEL **022-234-5346**

■受付時間 9:00～21:00

●休館日 月曜日・祝日の翌日・年末年始

指定管理者(仙台市教育委員会指定)
公益財団法人 仙台ひと・まち交流財団



高齢化により、地域には夫婦や単身女性のシニア世帯が増えてきています。そうした中で、地域と交流の少ない単身の方や、介護などで引きこもりがちな女性が多く見受けられるようになってきました。

そこで、本講座は、女性たちが気軽に集える学習の場を設けることにより、地域の女性たちの交流を促進することを目的として開催しました。

*この講座は、「女性のための講座企画会」の市民企画員が企画・運営しました。

*会場は、黒松市民センター 【全3回】

第1回 ■実技「フラダンス」 11/11(水) 10:00～11:30

講師:フラスタジオ Mana 尾形 かおり氏

講師の模範演技を鑑賞するとともに、実技では上半身と下半身の振り付けをひとつずつ覚えながら、全員でフラダンスを1曲踊りました。実技の後には、市民企画員を交えてのお茶飲みタイムで交流を深めました。(参加人数:女性 17人)

■参加者の感想

親の介護等をしていますので、あまり時間がなく予定も立てられないので、気軽に参加出来ることが何より楽しく過ごさせていただきました。／とても楽しかったです。／脳トレになりました。



第2回 ■調理実習「旬のお魚を使った料理」 11/25(水) 10:00～13:00

講師:「和」倶楽部 高橋 二義氏・仙台おさかな普及協会

講師が鮭を丸ごと1匹捌いてみせるところから始まり、はらこ飯、生鮭の薄切りサラダ、あさりの味噌汁の3品を作りました。

(参加人数:女性 18人)

■参加者の感想

皆さんとわいわいにぎやかに楽しいひとときでした。／初めて参加しました。魚のさばき方が勉強になりました。とてもおいしくいただき、自分でも作ってみたいと思います。／皆で協力して出来る幸せを感じました。



第3回 ■実技「クリスマスのフラワーアレンジメント」 12/9(水)10:00～11:30

講師:株式会社アジアナーゼリー 大宮 英人氏

可愛いサンタの飾りがついた、クリスマスのフラワーアレンジメントを作りました。実技の後のお茶のみタイムは、最終回ということで、顔見知りの方が増えたせいか、賑やかに盛り上がりました。

(参加人数:女性 18人)

■参加者の感想

とても楽しく参加させていただき、楽しい講座でした。／高齢者にとってとてもうれしい行事です。



「富沢アクティブエイジングサロン」事業計画概要書

「市民センターの施設理念と運営方針」の地区館の役割の（１）地域住民本位の生涯学習拠点機能〔市民参画の推進と市民の活動の育成・支援〕、（３）地域のコミュニティづくり機能の〔地域活動を担う人材の育成〕を踏まえて富沢市民センターの事業実施方針として「地域の喫緊の課題である地域の人材の発掘・育成事業に注力する」を掲げ、この事業を企画している。

<事業（講座）の背景と目的>

平成 25 年度より、複数年事業として、地域のシニア世代の交流、地域リーダーとなる人材の発掘・育成を目的に本事業を実施してきた。シニア世代が気軽に集まれるサロンを開催するために、企画運営に関する様々なスキルを学ぶ場を提供し、平成 27 年度は実際にサロンを開催した。今年度は「人とのつながりながらまちをつくる」コミュニティデザインを意識し、地域団体との連携を視野に入れた企画を考え実施しながら、地域に貢献する活動を行う人材育成を目指す。

<事業（講座）の主な内容>

① 今年度の目標「前年度に学習したスキルを更に深化させる」

運営員が地域に戻って地域リーダーとして地域を活性化するために活躍することを想定しつつ（コミュニティデザイン）、講座を自ら企画運営する。市民センターは、この中で運営員が活躍するまでの離陸期間において相談や助力を行うプラットフォームとしての役割を果たしていく。

② 年間計画の策定および講座の開催

運営員が自ら企画会議を開き、講師、費用、スケジュール調整等の準備を進めて講座を実施する。運営員各々が担当を変えながら、概ね月一回のペースで実施する。

・「誰でもできる簡単ヨガ」「歌声喫茶」「調理ハット汁」「館外学習」他

③ 運営員の研修および地域団体との交流

今年度は運営員だけで実施研修（OJT）を兼ねて館外学習を実施したり、地元の農業団体や市民センターまつりに参加することで地域の各団体との交流も図る予定である。

④ 講座の反省、次年度への課題の話し合い

今年度の活動を総括し、地域リーダーとして自立するために必要な課題等を運営員間で話し合う。市民センターは後方支援の役割を認識しつつ適切な助言を行う。

<期待する事業効果>

- ・地域リーダーとしての技（わざ）の修得
自ら講座を実践することにより、地域リーダーとしての、調査および情報収集方法、企画、広報、人を巻き込むコーディネートの力をつけられる。
- ・市民センターで定期的で開催する講座の企画運営を通してメンバー同士が情報交換しながら、地域コミュニティについて学び、次の行動を起こすきっかけとなる。

<開催時期>

平成 28 年 5 月～平成 29 年 2 月

<予定対象>

地域住民（シニア世代）

<昨年度までの（平成 25, 26, 27 年度）の実施状況>

①平成 25 年度 「地域シニアの交流」、参加者 21 名

楽しみながら、人との交流や地域での繋がりを学び、地域の中で魅力的な生き方のきっかけ作りをする。初年度なので、まずは、運営員の関係作りを主眼とする。

- ・「宮城検定を媒介とした交流会」「メイドイン富沢の野菜で調理」等

②平成 26 年度 「運営員が市民センターと一緒に講座の企画運営」参加者 15 名

市民センターが音頭をとり、運営員が実施したいこと、得意なこと（運動系、料理系、学びー講座、学びー体験等）で講座を企画実行する。運営員に講座の流れ、ポイントを学んでもらう。

- ・「ジャズ鑑賞会」「大人のスポーツ」「私の趣味発表会」等

③平成 27 年度 「運営員が前面に立って講座の P D C A」参加者 12 名

運営員が自ら企画会議を開き、地元講師、広報、スケジュール等の準備調整を進めて、講座を実施する。市民センターは原則として後方支援とする。

- ・「ニュー・スポーツ」「食育講話」「歌の会」「地域探索」等（別紙参照）

講座レポート

市民企画講座

富沢アクティブエイジングサロン

平成25年5月11日～平成25年10月12日(全6回)実施

富沢は太古の昔より人びとの集うところ・・・

富沢市民センター

●お問い合わせ

TEL 022-244-3977

■受付時間 9:00～21:00

●休館日 月曜日・祝日の翌日・年末年始

指定管理者(仙台市教育委員会指定)
公益財団法人 仙台ひと・まち交流財団



富沢アクティブエイジングサロンは、地域活動や社会貢献を考えているシニア世代が交流や学びを通して、地域で生きるきっかけ作りを体験する講座です。受講生は21人、企画・運営委員を中心に交流の輪がひろがりました。

第1回(5月11日)

★『あばいん富沢』交流会★

宮城検定などゲームや歌を交えた交流会

講師：地主 幹夫氏
(仙台ミュージカル
アカデミー主宰)

出席者：15人



第2回(6月1日)

★自分の体を元気に!★

日常の中のトレーニングとして

誰でもできるヨガ体験

講師：三浦 伸子氏
(ヨガインストラクター)

出席者：16人



第3回(7月6日)

★地域を知ろう!メイド・イン富沢の野菜で調理★地元農家の方に富沢で栽培している野菜の話聞き、実際に野菜を調理して試食

講師：庄子勲氏(JA仙台青年部西多賀支部長)

吉田きみ子氏
(みやぎ食育
コーディネーター)

出席者：18人



第4回(8月3日)

★ゲームで学ぶお金の役割★

講師：SMBCコンシューマーファイナンス(株)
(出前講座)

出席者：15人



第5回(9月7日)

★交流会★

講座を振り返り、来年度につながる講座の企画を考える交流会

出席者：10人



第6回(10月12日)

★おいしい珈琲の入れ方★

珈琲をおいしく入れるコツを学び、飲みながら交流会をしました。

出席者：13人



受講生の感想～1年間を振り返って～

- ・せっかく顔見知りになれたのに、あと2回では淋しいです。やっていただきたい(できればお手伝いもしたい)こともあります。
- ・毎回、何かを学ぶことができ楽しかったです。
- ・月一回、地域の方々と交流できるのはとても楽しみでした。来年度も講座が開催されるなら、ぜひ、参加してみたいと思います。

講座は6回で終了しましたが、受講生同士の交流が進み、これから月1回程度、市民センターに集まり、お茶っこサロンを自主的に開くことになりました。

平成 26 年 8 月～12 月実施

富沢アクティブエイジングサロン

～青年シニア、ワクワク遊ぼう～

富沢は太古の昔より人びとの集うところ・・・

富沢市民センター

●お問い合わせ

TEL 022-244-3977

■受付時間 9:00～21:00

●休館日 月曜日・祝日の翌日・年末年始

指定管理者(仙台市教育委員会指定)

公益財団法人 仙台ひと・まち交流財団



知的好奇心が旺盛で多趣味、元気で活動的な「青年シニア」世代が、楽しいこと、ワクワクすることを楽しみながら、自分らしい社会参加のきっかけを見つけることを目指し、8月から12月まで毎月1回、土曜日の15時～17時に、5回連続で講座を開催しました。

1回目
8/9

始まりの会～ジャズを聴きながら



地域にお住まいの若手演奏家による軽快なジャズの演奏が響く中、第1回目の講座が始まりました。講座の参加者は、50代～70代の男女15人(男性5人・女性10人)です。生演奏を堪能した後、自己紹介とこれからの予定を確認しました。

2回目
9/20

ニュースポーツで、コミュニケーション



4チームの対抗戦で、「フロアカーリング」という新しいゲームに挑戦しました。賞品もあるということで、夢中になってゲームを進め、一喜一憂しながら、お互いの距離が縮まりました。

3回目
10/25

食べて知る富沢の味



富沢で栽培されている野菜を使って、エコクッキング。みんなで楽しく料理して、バイキング形式で食べながら、会話も弾みました。

4回目
11/29

富沢！ここが一番お気に入り



5回目
12/20

新たなステージへの出発点

この講座は、複数年事業で、今年度は2年目です。1～3回目は、受講生同士のコミュニケーションを図りながら企画の面白さを体験してもらい、4・5回目は、各自興味があるものや好きなことを話題にしながら、自分たちがサロンを開くとしたらどんなものがあるのか、具体的に話し合いました。来年度は、この話し合いを基に実際にサロンを開催する予定です。どんなサロンになるか、楽しみにしててください。

<参加者の感想>

・楽しいこと、ワクワクすることをさらに皆さんと経験していきたいと思っています。・転勤族にとっては富沢を知る上でも心強いサロンで、いつも楽しみにしています。・仲間意識が出てきたので、一回一回の参加が楽しみだ。・色々勉強になったし、他の人との交流が楽しみ。

<これからやってみたいこと>

・富沢を歩く ・音楽を楽しむ ・富沢地区のマップ作り ・散歩やウォーキング ・体操 ・自分史等

平成 27 年 5 月～28 年 1 月実施

富沢アクティブエイジングサロン

～サロンを開こう～

富沢は太古の昔より人びとの集うところ・・・

富沢市民センター

●お問い合わせ

TEL 022-244-3977

■受付時間 9:00～21:00

●休館日 月曜日・祝日の翌日・年末年始

指定管理者(仙台市教育委員会指定)
公益財団法人 仙台ひと・まち交流財団



「富沢アクティブエイジングサロン」は、地域のシニア世代が気軽に集まれる場づくりのために、12人の運営委員が話し合いを重ね、講座を企画し、開催しました。

癒しのオカリナコンサート

6/20
(土)



第1回目となる6月は「オカリナコンサート」です。オカリナの澄んだ音色が流れる中、演奏者の高橋佐知子さんからは、オカリナの新しい魅力や「ヴィオリラ」という新しい楽器も紹介してもらいながら、癒しの時間を過ごしました。



ニュースポーツを体験しよう!

7/25
(土)

2回目は、ニュースポーツの「ディスコン」を体験しました。ニュースポーツというとどんなものかわからない方が多いようですが、「いつでも」「どこでも」「だれでも」「すぐに」参加できる新しい競技のことです。いろいろな種類がありますが、今回体験した「ディスコン」は、赤と青の2チームに分かれて、CDに似た円盤を投げ、どちらがポイントに近づいているかを競う簡単なスポーツです。

単純なだけに、すぐにコツをつかめ、年齢や各自の体力、もちろん運動神経にも関係なく、白熱したゲームになります。暑い時期での開催でしたが、進行した運営委員がおなじみのラジオ体操を京都弁で行うなど工夫し、ゲームに参加した方々は、和気あいあいと楽しく競技を進め、心地よい汗をかきました。



歌で伝える～食べ方上手は生き方上手

8/22
(土)



地域の方々が気軽に集まれる「富沢アクティブエイジングサロン」、8月は♪食育コンサート♪を開催しました。

「おなかに脂肪がついてきた! 疲れやすくなった…」と感じている年代の皆さんが、管理栄養士の飯淵由美さんから、体にちょうどいいものを食べて、賢く年を重ねる「ナイスエイジング」のお話を聞きました。その後は、歌で「食育」の大切さを伝えているリバースファイブの皆さんの楽しい歌とパフォーマンス、和やかな雰囲気の中で改めて「食」の大切さを学びました。



地域散策～仙台市電保存館見学～

10/24
(土)

地域をみんなで歩きたいという企画を考えましたが、実現するのは多くの課題が見つかりました。受講生を集めて実施するにはまだまだ不安があるので、今回は内部研修としました。

目的地は、市民センターから歩いて10分ほどのところにある「仙台市電保存館」に決まりました。担当者は、保存館と連絡を取ったり、道順を確かめたり、雨天の時を考えたりしました。当日は、車いすの方の参加想定し、実施しました。運営委員は、それぞれに、多くのことを学びました。

貴重な経験になりました。



11/28
(土)

メイドイン made in 富沢の野菜で調理



11月は、地元の野菜を使った料理を作る講座です。教えてくださるのは地元農家おばさん「若草会」の皆さん。富沢で採れた野菜を主に使い、メニューも豊富に、いろいろ教えていただきました。

和気あいあいと作業を進め、みんなで協力して出来上がった料理はどれも大変おいしく、笑顔でいただきました。地元農家の方のお話も聞き、地産地消の大切さを学びました。



1/23
(土)

みんなで歌いましょう

1月は、「みんなで声を出して歌いましょう」という講座を開催しました。

初めに、「トーニング」という声だしをしました。まだまだ緊張している様子の参加者。まずは、司会者のリードで季節の歌を歌いました。小林康浩さんのピアノ伴奏に合わせて歌うとなかなかいい感じです。



その後は、参加者からリクエストを出してもらい、会場は歌声に包まれました。途中「ジージーズ」という男声合唱団の歌声披露もあり、和やかに会は進みました。「楽しかった」「声を出すのは久しぶり」「また参加したい」との声をいただき、会場に集まった約50人の参加者は笑顔で会場を後にしました。

今年度は、シニア世代が気軽に集まれる講座を6回開催しました。運営委員は、それぞれの経験や興味を生かした企画を考え、企画会議を開き、担当者を決め、講師・費用・スケジュール等々の準備を進め、講座を実施してきました。参加者の笑顔に助けられ、次年度も楽しい講座を開催していくことになります。

1 仙台市指定管理者評価制度・・・・・・・・指定管理者による自己評価 市による内部評価

〔対 象〕

公益財団法人仙台ひと・まち交流財団による指定管理業務である地区館の運営管理（施設管理及び生涯学習事業）

〔概 要〕

指定管理者によって管理運営が行われている公の施設について、管理運営が協定書、仕様書、事業計画書等に従い適正に行われているか否か、また業務改善の状況や優れた取り組みなどを的確に把握することを目的として、毎年度評価を行うこととし、評価の結果を公表している。

対象施設への立入調査、指定管理者から提出された各種報告書及び利用者アンケートなどに基づき、指定管理者が行った自己評価結果を踏まえて、施設所管課（生涯学習支援センター、市民局地域政策課、各区中央市民センター）において運営の評価を実施する。

〔評価の流れ〕

- (1) 指定管理者によるセルフモニタリング（11月～1月）
- (2) 施設所管課によるモニタリング（1月～2月）
- (3) 仙台市ホームページで指定管理者評価シート等の公表（翌年度9～10月頃）

2 事業反省評価・・・・・・・・指定管理者による自己評価 市による内部評価

〔対 象〕

地区館の生涯学習事業

〔概 要〕

指定管理者は、10～11月に各地区館において事業評価表を作成のうえ、館長及び事業担当者にて事業反省評価会を実施する。反省評価を踏まえ、次年度の市民センター事業の企画を行う。

区中央市民センターは、区内の地区館支援の一環として上記事業反省評価会に出席し、助言等を行いながら、併せて下記のヒアリング調書を作成する。

3 教育委員会による点検評価・・・・・・・・市による自己評価

〔対 象〕

仙台市が行う市民センター事業全般

〔概 要〕

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条において、平成20年度より、すべての教育委員会はその権限に属する事務の管理及び執行の状況について毎年点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務付けられたことから、仙台市教育委員会では、教育委員会の事務の点検及び評価を実施し、その結果を報告書にまとめ、市のホームページなどで公表している。

〔評価の流れ〕

- (1) 生涯学習支援センターにおいて、4月から6月までに、前年度に実施した事業の目的と概要、実施状況、効果等、課題・改善策をまとめ、教育委員会へ提出する。
- (2) 教育委員会において、選任した学識経験者2名の意見を付して、9月議会に提出するとともに、市のホームページで公開する。

4 重点3事業に係る事業評価 **市による自己評価**

〔対象〕

重点3事業（①子ども参画型社会創造支援事業、②若者社会参画型学習推進事業、③住民参画・問題解決型学習推進事業）

〔概要〕

重点3事業について、各区中央市民センターにて評価シートを作成のうえ自己評価を行い、生涯学習支援センターでとりまとめる。

5 公民館運営審議会による評価 **外部評価**

〔対象〕

市民センター事業のうち年度ごとの評価のテーマに沿って選定した事業

〔概要〕

「施設理念と運営方針」に掲げる役割・機能のうち、特定の機能に焦点をあてた評価を年度ごとに評価テーマを変えて実施している。選定した事業について、対象事業に関する資料や職員からの説明により事業内容や成果等を把握するほか、事業関係者等へのヒアリングや視察を実施し、評価テーマ及び評価の視点を記載した評価シートにより評価を行い、評価シートをもとに実施した評価の結果等を「仙台市市民センター事業評価報告書」としてまとめている。

〔評価の流れ〕

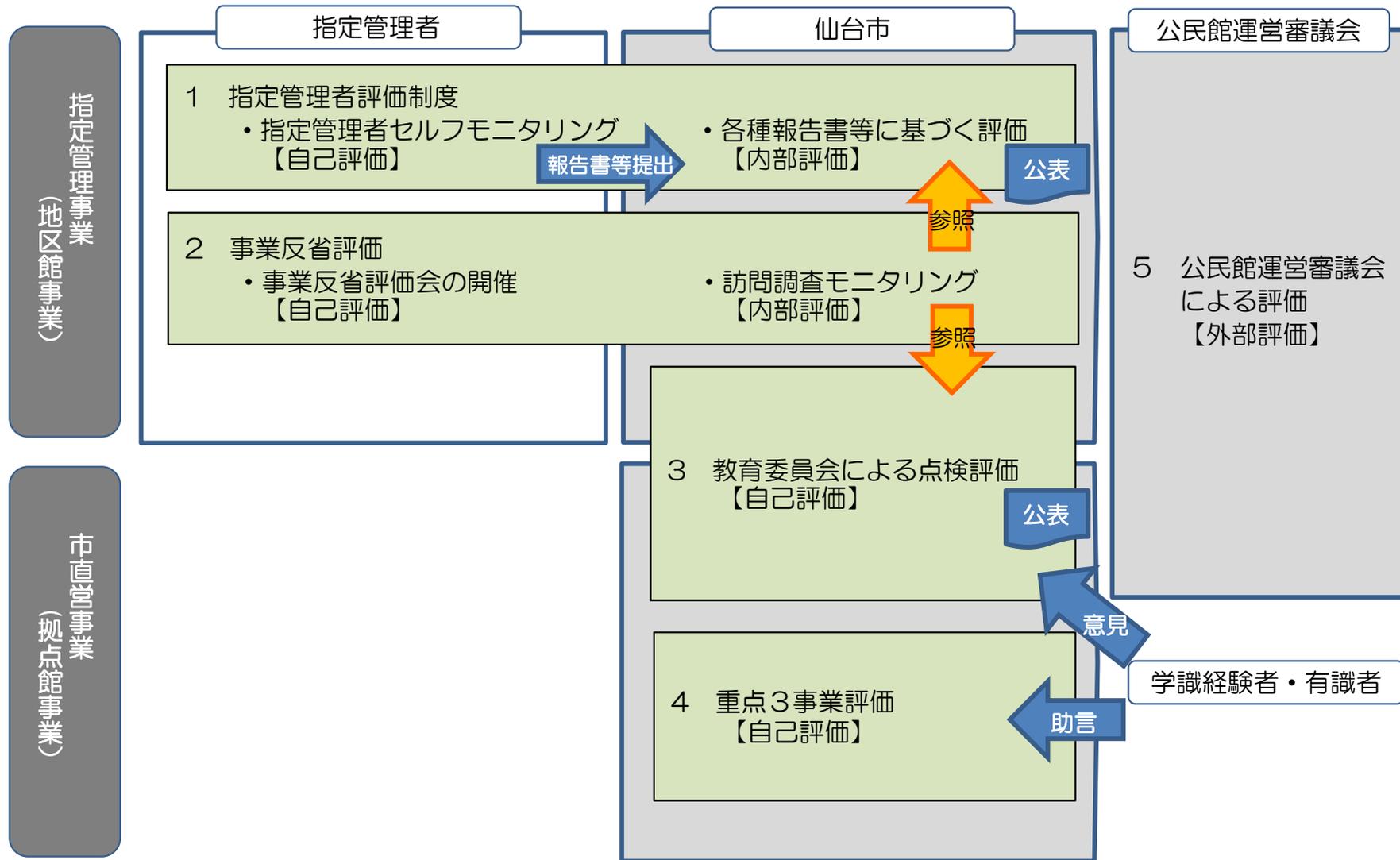
- (1) 評価対象事業・評価手法の決定（5月）
- (2) ヒアリング・事業視察の実施（6月～9月）
- (3) ヒアリング結果の取りまとめ・概要報告・事業評価・評価シート作成（9月～11月）
- (4) 報告書作成(翌1月～3月)

その他

上記の他、利用者アンケートや受講者アンケート、事業運営懇話会などを実施し、講座等に参加した市民や地域に住む方々からの意見・提案等を聞く機会を設け、市民センターの運営改善や事業企画の参考としている。

現行の市民センター事業の評価体制

生涯学習支援センター



37

※各種評価に際しては、利用者アンケートや受講者アンケート、ならびに事業運営懇話会での意見等の活用も図っている。

資料 3

事業運営懇話会等について

【概要】

事業運営懇話会等(以下、懇話会等と略す)は、主に地域の町内会や学校、地区民生委員児童委員協議会や地区社会福祉協議会などの地域団体、サークル等利用団体、などの代表者に集まっていただき、施設運営・管理に関することや市民センター事業全般について様々な立場から意見をいただく場であり、地域情報を収集する機会にもなっている。

平成17年度から地区館における重点事業として「市民参画型事業」または「懇話会等」を実施することとし、市民協働による事業や地域の特性を踏まえた事業の展開に努めてきた。さらに翌18年度からは「懇話会等」を全館での必須事業として位置づけ現在に至っており、懇話会等で地域住民の学習ニーズと地域課題を把握した上で、講座等の企画・実施を行うとともに、事業の見直しや改善に努めることとしている。

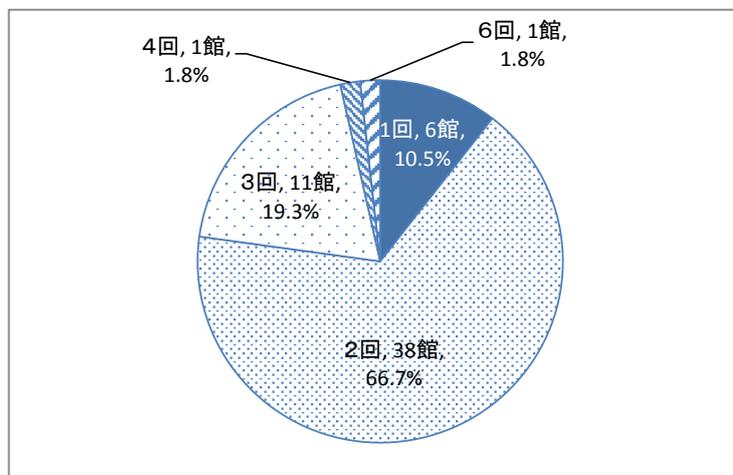
【平成28年度の開催状況】 ※指定管理者からの報告書を元に作成

実施館数 57館(生涯学習支援センターを除き実施。但し馬場・湯元市民センターは秋保市民センターとして実施)

開催回数

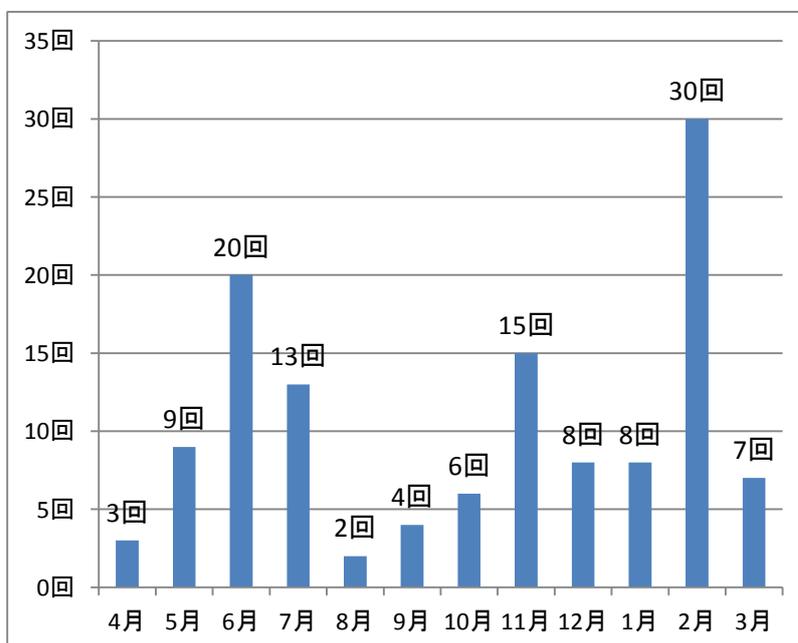
全125回

回数	館数
1回/年	6館
2回/年	38館
3回/年	11館
4回/年	1館
5回/年	0館
6回/年	1館
計	57館



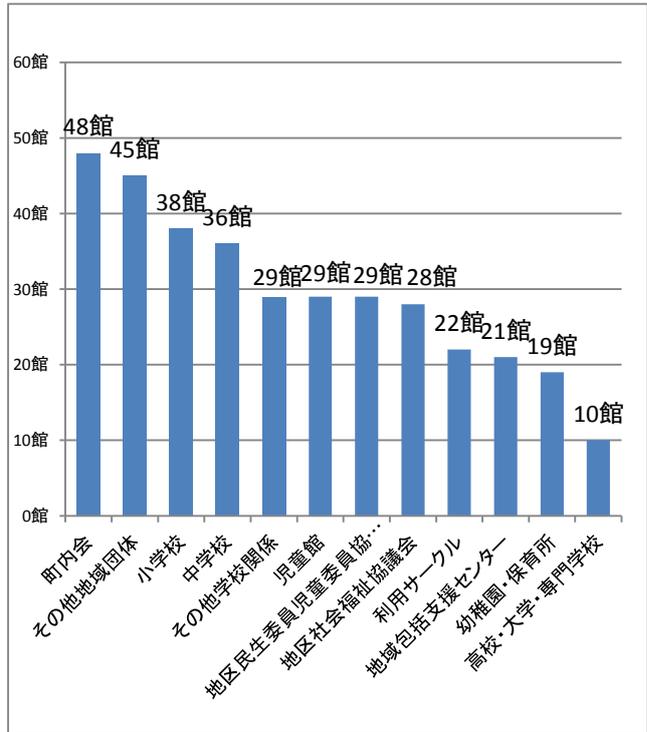
開催時期

開催月	回数
4月	3回
5月	9回
6月	20回
7月	13回
8月	2回
9月	4回
10月	6回
11月	15回
12月	8回
1月	8回
2月	30回
3月	7回
計	125回



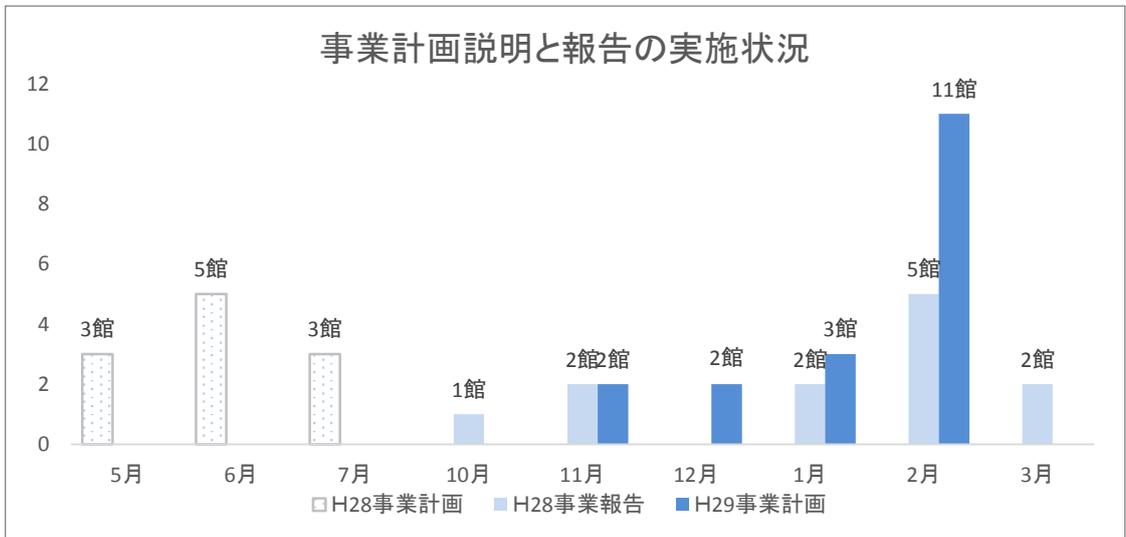
参加団体

団体	館数
町内会	48館
幼稚園・保育所	19館
児童館	29館
小学校	38館
中学校	36館
高校・大学・専門学校	10館
その他学校関係 ※1	29館
地域包括支援センター	21館
地区民生委員児童委員協議会	29館
地区社会福祉協議会	28館
その他地域団体 ※2	45館
利用サークル	22館



※1 PTA、学校支援地域本部等
 ※2 老人会、体育振興会、商工会等

事業説明



※ 全館分掲載されていないため、参考値とする。

意見の傾向

内容	意見が出された館数
1. 施設管理に関する要望	32館/57館 (56.1%)
2. 地域情報やニーズに関する意見等	43館/57館 (75.4%)
3. 地域団体の活動報告・情報交換	49館/57館 (86.0%)
4. 主催講座の提案・要望	43館/57館 (75.4%)
5. その他	20館/57館 (35.1%)

※ 留意点

- ・複数の項目にまたがる意見は、それぞれの項目に1館ずつカウントされている。
- ・1つの館で同じ項目に分類される意見が複数出されても1館としてカウントされている。

平成28年度 事業運営懇話会等開催実績【田子市民センター】

開催の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・市民センター事業運営等について意見聴取をし、事業運営に生かす。 ・町内会長や学校関係者、地域団体の代表者による情報交換を行い、年間行事予定等の共有を図る。 ・市民センター利用者による懇話会を行い、情報交換することで利用者の学習ニーズを把握し事業運営の参考とする。 		
名称 実施日	参加 延人数	構成メンバー	テーマと出された主な意見等
懇話会 H28.5.27	23人	<ul style="list-style-type: none"> ・14町内会長 ・小学校長、主幹教諭 ・中学校長、防災主任 ・地域包括支援センター ・地区民生委員児童委員協議会長 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民センターの役割について ●平成28年度市民センター事業計画、各町内会、学校等の年間行事予定の情報交換 ・市民センター年間事業計画、各町内会、学校等の年間行事等を紹介しあい、市民センター年間事業計画と各町内会、学校等の年間行事等日程が重複しないよう調整を行った。 ・年間行事予定などの情報の共有が図れて良かった、との意見あり。 ・「たごっ子まつり」の開催について、平成28年度も実行委員会を設立し取り組むこととなった。 ●地域防災訓練実施計画概要 ・災害時避難所運営等では、中学生の若い力の必要性を再認識した、との意見あり。 ・地域の防災力を高めるため防災訓練等の継続した取り組みが必要、との意見あり。 ・地域防災訓練の学校の参加体制については、田子小、高砂小、田子中が調整し各町内会と詰めていくこととなった。 ●田子地域復興関連情報の共有 ・復興公営住宅から通学している児童・生徒の人数を知りたい、との質問あり。児童生徒の人数は、当該小・中学校で現在調査中であると回答。 ・復興公営住宅支援者の会でのこれまでの取組みについて委員長から報告があった。
利用者懇談会 H28.7.16	5人	利用サークル等の代表者(5団体)	<ul style="list-style-type: none"> ●市民センターの役割について ●平成28年度市民センター事業計画 ●市民センターへの意見・要望等 ・施設利用について満足している、との意見あり。 ・多目的ホールの利用について、利用日時はあらかじめ予約申込みが必要なこと、定期的な予約ができないこと、スポーツ施設とは設置目的が異なることを説明。 ・市民センターが利用できない場合の、鶴巻コミュニティセンター利用について紹介。 ・「伝笑あそび会」の活動について、高齢者の生きがいづくりを目的に、昔あそびを通して交流を図っており、子どもも参加している旨を説明。 ●たごっ子まつりへの参加等について ・たごっ子まつりのステージ発表では、子供たちの参加が増えておりとても良い、ジョイントコンサートはもう少し聞きたい、との意見があり、実行委員会に伝えることとした。
たごっ子まつり&ジョイントコンサート 反省懇話会 H29.3.4	18人	14町内会長、副会長 小学校金管バンド親の会 小学校PTA	<ul style="list-style-type: none"> ●たごっ子まつりの部門毎の実施報告 ●たごっ子まつりのアンケート結果の報告 ●次年度に向けての課題検討 ・来場者数2,500人。天候に恵まれたことから多くの来場者が見られた。 ・例年以上に盛り上がり、参加団体や来場者数も増えている、来場者のマナーが向上してきている、との意見あり。 ・児童による和太鼓演奏はまつりを大いに盛り上げた、次年度も継続してほしい、との意見あり。 ・金管バンドへの加入児童が減少していることから、金管バンドへの支援として、地域行事への参加呼びかけや地域での金管バンドの指導者募集等地域で協力していきたい、との意見あり。 ・他、近隣の小中高校と地域が連携し地域の児童・生徒の健全育成を図ることができた、町内会をはじめ地域住民の協力が高まっている、のぼりの数も増え、華やかさが増した、との意見あり。
成果・効果・反省等	<ul style="list-style-type: none"> ・田子西3丁目町内会、田子西中央町内会、田子西こだま町内会の3町内会の会長さんが新たに参加し、新3町内会との情報交換ができたことは、これからの田子地域のコミュニティづくりに大いに参考となる内容であった。 ・地域の関係団体が、各々の年間行事や地域行事等について共有できた。 ・地域防災訓練は、田子小学校・田子中学校が授業日として位置づけたことは、地域防災の意識の高まりが伺えた。また、高砂小学校区の一部町内会も毎年参加しており、当市民センター管内の地域のまとまりが顕著である。 ・町内会、小・中・高等学校、地域の関係団体との情報の共有や地域課題等については連携等が密になってきている反面、施設利用者との懇話会を一層充実させ地域住民の学習ニーズの把握に努めたい。 		

指定管理者自主事業「お茶っこサロン」について

【概要】

お茶っこサロンとは、市民センターが地域住民や利用者から直接いろいろな意見を聞く場である。事業運営懇話会等が要求水準書により全館に求められる事業として地域団体等を招くのに対し、お茶っこサロンは指定管理者が自主的な事業として設定し、懇話会等よりも気軽な形で市民センター運営や地域に関することなどについて意見を伺う場としている。

(1) 開催形態

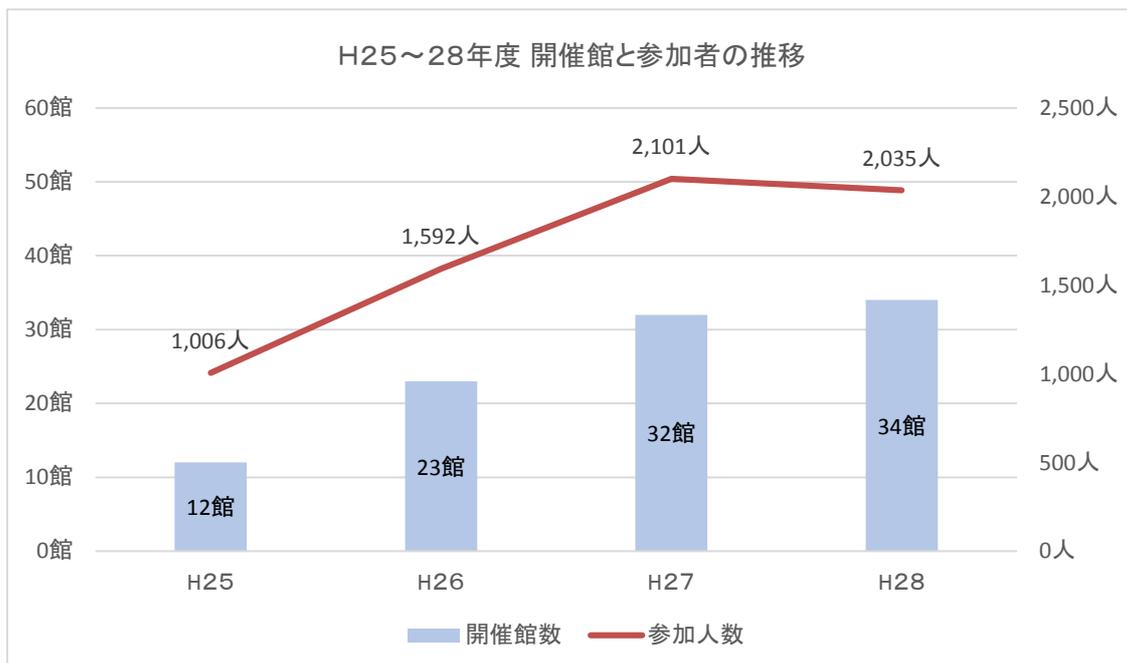
① 主催講座の後に続けて行う ②館内の企画展示スペースで行う ③日付を決めて定期的に行う ④地域の会議等にお邪魔する等、様々な形態により工夫して実施している。

(2) 効果

① 地域情報や人材情報の共有、個人や地域のニーズの収集、地域課題の把握等が図れ、事業の企画運営に生かせる ②地域交流の場として、市民同士や職員と市民のコミュニケーションの活性化に役立つ ③転入者や未利用者も含めて、市民センターや主催事業をPRでき、利用者拡大へつながる 等の意見が各館から報告されている。

【状況】 ※対象 58 館(生涯学習支援センター含む。馬場・湯元市民センターは秋保市民センターへ)

開催館数は増加を続けており、平成 28 年の参加者数はわずかに減少したものの、今後の継続・拡大を見込んでいる。平成 28 年度の開催館は市民センター全体の 6 割弱（58 館中 34 館）であり、うち年間 1～2 回開催する館が 5 割、3～4 回が 3 割、5 回以上が 2 割となっている。1 回あたりの参加者は、10 数名から 50 人程度が多いが、開催形態により様々である。



平成 28 年度事業評価対象事業のその後の展開について

○市民企画会議「女性のための講座企画会」 黒松市民センター

【平成 28 年度事業の効果や成果】

- ・高齢者だけでなく、若い方、仕事をしている方も参加できるように、託児サービスの付加や開催曜日を土曜日にするなど、工夫を凝らした企画になるよう企画会で話し合い、「きらめきサロンう・ふ・ふ」として 4 回シリーズの講座を実施したことで、地域の女性たちが気軽に集い、若いお母さんが先輩お母さんに相談するなど、年齢を越えた交流が活発に行われた。
- ・企画員から、今後もボランティアとしてでも参加したいとの声が聞かれ、人材育成の面においても一定の成果が図られた。

【その後の工夫点や改善点】

- ・ネットワークづくりという目標達成のためには各世代の参加者を増やす工夫が必要という認識を職員と企画員とで共有できたことから、新たな事業を行うこととし、「女性のための講座企画会」は解散した。
- ・新事業の「いろどり工房－女性たちのネットワークづくり－」では、単発の講座にとどまらず継続性のある事業を、との 28 年度の企画員の声を受け、じっくり落ち着いて信頼関係を築ける場づくりを意図して「ものづくり」という共通テーマを設け、参加者が継続して参加しやすいようにした。
- ・公民館運営審議会からの各提案を受け、平成 29 年度に新たに立ち上げた市民企画会議「学びの広場」企画会の運営では、企画員による講師情報収集等、企画員主体の活動に近づける取り組みを行うこととした。

○富沢アクティブエイジングサロン 富沢市民センター

【平成 28 年度事業の効果や成果】

- ・複数年事業の 4 年目となる平成 28 年度は、運営委員会が年 5 回のサロン（ヨガ、時事講話、歌声喫茶、調理）を実施することにより、地域住民が気軽に参加できる交流の場づくりができた。
- ・センターまつりでの子どもの遊びコーナーを企画・運営するなど新しい活動も生まれ、地域に貢献する活動を担う人材が育ちつつある。

【その後の工夫点や改善点】

- ・これまで運営委員の自主活動への機運があまり高まらないことが課題であったことから、平成 29 年度は運営委員の自主活動の場として、これまでの活動の一つである「歌声喫茶」の自主サークル化を図るとともに、サロンの自主的な運営の可能性について模索を行うこととした。
- ・地域活動を担う人材の更なる育成、既存運営委員のみによる閉鎖的な印象の払拭の観点などから、継続の企画員に加えて新たな運営委員を募集することとした。
- ・センターまつりでの子どもの遊びコーナーを継続実施することに加え、地域のニーズと運営委員の希望とを摺り合わせながら地域貢献活動にも関わっていけるよう、今後の話し合いで新しい活動の方向性を検討する。

講座レポート

女性のための市民企画講座【4回講座】

きらめきサロン う・ふ・ふ

平成28年10月28日(金)、11月25日(金)、
12月10日(土)、平成29年2月4日(土)

【託児付き】

地域にひろがる
黒松市民センター

●お問い合わせ

TEL **022-234-5346**

■受付時間 9:00~21:00

●休館日 月曜日・祝日の翌日・年末年始

指定管理者(仙台市教育委員会指定)

公益財団法人 仙台ひと・まち交流財団



「女性のための講座」を企画運営するために企画員を募集し、企画会を重ね出来上がった講座です。閉じこもりがちな高齢者や子育て中の母親、介護や仕事をしている地域の女性たちが、少しでも地域との関わりを持ち、生き生きと生活をしていくことができるように、誰でも気軽に参加できる講座を考えました。地域での顔見知りが増え、交流を深めながらネットワークを広げていくことができれば、地域の活性化にも繋がるのではないかと企画員も考えながら託児付きにすることも加えることとなった。

第1回 10/28(金) 10:00~12:00

「楽しく踊ろう!フラダンス」参加14名

若い人から高齢者まで様々な年代の方に参加いただきました。最初に講師の美しい踊りから始まりました。それから踊り一つ一つの意味を教えていただきながら動作を覚え、最後にステージ発表で披露しました。その後の交流会では、心地の良い音楽で心身がほぐれ、ほんのひと時だけでも和やかに時間を過ごすことができました。



第2回 11/25(金) 10:00~13:00

「缶詰でおいしく料理」参加12名

「簡単、手抜き料理のイメージを持つ缶詰ですが、本当はとても栄養価が高く、短時間でできる利点があります。」と管理栄養士の方のお話でした。今回は様々な缶詰を利用してハンバーグやあけぼの汁、小鉢他2品を作りました。普段あまり使わない食材や調理方法に驚きながら作業をしていました。



第3回 12/10(土) 10:00~12:00

「木の実を使ったクリスマスオーナメント作り」
参加11名

クリスマスシーズンを迎え、ツリーだけではなく、どこでも飾れるオーナメント作りをしました。木の実や葉、花、枝、リボンなど、何をどう飾ろうかと思案しながら、2種類を作り上げました。仕上がりが近くなると若いお母さんと先輩お母さん達の会話が弾み楽しそうでした。



第4回 H29・2/4(土) 10:00~12:00

「和菓子作りとお茶会」参加23名

最終回となった今回は、和菓子とお茶それぞれのプロの方をお呼びしての学習でした。春の季節の様々な和菓子を見本に作っていただいた後に自分たちで作っていましたがなかなか講師のようにはいきません。またお茶では、何種類かそれぞれの効能やおいしい淹れ方を習い、最後にお菓子と共にいただきました。



参加者の声

- ☆初めてのフラダンスでしたが、とてもいい運動になりました。心身がほぐされた感じがした。
- ☆普段使わない食材や調理法がおもしろかった。発見することが多かった。
- ☆託児付きでゆっくり作品作りができて良かった。同班の方と話して悩みがすっきりしました。
- ☆和菓子を作る貴重な体験ができた。難しかった。本格的なお茶の味を楽しめました。
- ☆また企画してもらえたら、うれしいし参加します。

企画員から

様々な講座の中でも受講者同士の交流が活発に行われ、企画のねらいに浴ったものとなったと思う。単発に終わったことが残念である。これからもまたボランティアとしてでも参加をしたい。

平成28年度 講座レポート

富沢アクティブエイジングサロン

《実施期間》

平成 28 年 5 月 14 日～平成 29 年 3 月 4 日

富沢は太古の昔より人びとの集うところ・・・

富沢市民センター

●お問い合わせ

TEL **022-244-3977**

■受付時間 9:00～21:00

●休館日 月曜日・祝日の翌日・年末年始

指定管理者（仙台市教育委員会指定）

公益財団法人 仙台ひと・まち交流財団



「富沢アクティブエイジングサロン」は、地域の幅広い年代の方々が気軽に集えるサロンの企画・運営を通して、地域に貢献する活動を行う人材を育てることを目的に開催しました。 【全 10 回】

回	日 時	内 容
1	5月14日（土） 10:00～11:30	H28年度の具体的な計画 運営委員のメンバー同士の交流会
2	6月25日（土） 10:00～11:30	サロン① 実技「誰でもできる簡単ヨガ」 講師：ヨガ講師 目黒 つねみ氏 終了後：企画会議
3	7月22日（金） 10:00～12:00	サロン② 講話「これだけは知っておきたいマイナンバー」 講師：仙台市情報政策課 終了後：企画会議
4	8月27日（土） 10:00～14:00	企画会議
5	9月21日（水） 10:00～11:30	企画会議
6	10月2日（日） 12:30～14:30	サロン③ 富沢市民センターまつり 「みんなで遊ぼう」コーナー運営
7	10月22日（土） 10:00～11:30	センターまつりの反省会
8	11月26日（土） 10:00～12:00	サロン④ 歌声喫茶「みんなで歌いましょう」 ピアノ：小林 康浩氏 歌：ふきのとう
9	2月4日（土） 10:00～13:00	サロン⑤ 調理実習「地元の野菜を使った料理～はっと汁～」 講師：宮城県食育コーディネーター 齋藤 和子氏
10	3月4日（土） 10:00～11:30	H28年度 事業の反省会

サロン①

実技「誰でもできる簡単ヨガ」

日時：6月25日（土）10:00～11:30

講師：ヨガ講師 目黒 つねみ氏

■ヨガ講師の目黒つねみさんのご指導のもと。無理なく出来る簡単ヨガの実技を行いました。参加人数は、サロンの運営委員を含めて20人でした。

参加した方々からは、「気持ちが晴れて、体もスッキリしました」「久しぶりに子育てを忘れ、リフレッシュ出来ました」などの感想が寄せられました。

（参加人数：20人）



サロン②

講話「これだけは知っておきたいマイナンバー」

日時：7月22日（金）10:00～12:00

講師：仙台市情報政策課

■「これだけは知っておきたいマイナンバー」をテーマに、仙台市情報政策課の方を講師に迎え、制度の概要やどんな場合にマイナンバーが必要とされるのか等について学びました。講話の質疑応答では、参加者の疑問に分かりやすく答えていただき、より具体的に制度を理解することができました。

参加した方からは、「ていねいな説明で分かりやすかった」「生の声での Q&Aは良かった」など、好評をいただきました。

（参加人数：23人）



サロン③

市民センターまつり「みんなで遊ぼう」

日時：10月2日（日）11:30～14:00

■富沢市民センターまつりにて、富沢アクティブエイジングサロン運営委員による、子どもの遊びのコーナーを開催しました。

プリンのカップを使った“カップ積み木”や、ペットボトルのキャップをひっくり返す“キャップ返し”など、身近な材料を使った手作りの遊びに、子ども達は大喜び！親子連れや小学生が何度もコーナーに立ち寄るなど、多くの子ども達で賑わいました。



サロン④

歌声喫茶「みんなで歌いましょう」



日時：11月26日（土）10:00～12:00

ピアノ：小林 康浩氏 歌：ふきのとう

■小林康浩さんによるピアノ伴奏で、歌声喫茶を開催しました。ふきのとうさんによるコーラスを楽しみながら、皆で懐かしい歌を歌い、大いに盛り上がりました。

参加した方からは「歌声喫茶にはじめて参加しました。久しぶりに大きな声で歌い気持ち良かったです」「なつかしい歌をたくさん歌えて大変楽しかったです」「ステキなピアノ伴奏と、皆さんの歌声に酔いしれました」など、好評をいただきました。

（参加人数：57人）



サロン⑤

調理実習「地元の野菜を使った料理～はっと汁～」

日時：2月4日（土）10:00～13:00

講師：宮城県食育コーディネーター 齋藤 和子氏

■宮城県食育コーディネーターの齋藤 和子さんをお講師に迎え、宮城県の郷土料理である「はっと汁」の作り方を学びました。汁の具材には、すいき（芋茎）や曲がりネギ、仙台白菜など冬の野菜をふんだんに使い、中に入れる“はっと”は、すいとん粉から練って作りました。

参加した皆さんからは「和気あいあいとした雰囲気、あっという間でした」「すいとん粉の練り方を勉強させていただき、参加して良かったです」「はっとのつるんつるんとした食感にびっくりしました」「初めて食べましたが美味しかったです」等の感想をいただきました。

（参加人数：24人）



「富沢アクティブエイジングサロン」運営委員会

「富沢アクティブエイジングサロン」は、市民の方々による運営委員会が、企画と運営を行っています。

今年は、10人の運営委員が話し合いを重ね、年5回のサロンを企画・開催しました。

8/27の企画会議の様子です。
市民センターまつりの「みんなで遊ぼう」コーナーの運営について話し合いました。



